かめおか
霧の芸術祭

Kameoka KIRI Art Cultivation

ARCHIVE BOOK 2021

Table of contents

かめおか霧の芸術祭について ―― 02
開かれたアトリエ 展覧会 ―― 10
開かれたアトリエ 図書コーナー ―― 14
ボンボンマルシェ ―― 18
KIRI² 芸術大学 ―― 22
KIRI WISDOM ―― 26
映像をみよう 対話をしよう「だれかとはひふへほの会」 ―― 28
食プロジェクト ―― 29
KIRI CAFE ―― 30
MUSIC AND FOOD FOR WORLD CIVIC TOUR ―― 31
こどもうるし体験プロジェクト ―― 32
かめおかこども霧の芸術祭 ―― 33
かめおか霧の芸術祭×亀岡高校美術部 ―― 34
かめおか霧の芸術祭×南丹高等学校 ―― 35
こどもアートプロジェクト 紙をつくる実験室 ―― 36
こどもみんげいプロジェクト ―― 37
かめおか霧の芸術祭×農林 ―― 38
かめおか霧の芸術祭×環境 ―― 39
かめおか霧の芸術祭×多文化 ―― 40
かめおか霧の芸術祭×京都芸術大学 ―― 41
霧の芸術館 ―― 42
−会場A 線を引き続けるためのアーカイブ ―― 44
−会場B 亀岡ゆかりの芸術家展 ―― 52
−会場C 開かれたアトリエ展覧会 ―― 70
−会場D HOME PARTY 08 −なんたうん2022− ―― 74
TIMELINE 2018−2021 ―― 79

霧は大地の呼吸である。

亀岡を包むその霧を深く吸い込み、大気の一粒一粒を
身体に循環させ、人も野菜も野山も川も育ってきました。
明智光秀の鼻息、円山応挙のため息、町人や農家の寝息、
いろんな吐息もまた、亀岡の盆地に消えては
湧き立ち再び霧となって、私たちの体内を循環します。

「かめおか霧の芸術祭」では、この「霧」を象徴として捉え、
たくましい「野良」の芸術を育てます。

「野良」とは有機的連関つまりオーガニックであるということです。
芸術家たちとの出会いが、霧の中に佇んでみないと
見えない世界を見せ、ここではないどこかに連れて行ってくれ、
亀岡一帯を驚きにあふれた芸術祭へと変容させます。
作品だけが芸術ではありません、生命や魂をより一層輝かす
「技術」のことをそう呼びましょう。

美味しい野菜を育てることができる人、
渓流を綱渡りのように舟を操ることができる人、
悲しい人に寄り添える人、鳥と話せる人、
へそで茶を沸かせる人、そんな芸術家がいっぱい暮らす
霧の盆地で「かめおか霧の芸術祭」が始まります。

かめおか霧の芸術祭 総合プロデューサー　松井利夫

ワークショップ

日常を耕す

本当はこんなに続くとは思っていなかったし、こんなに続けようとも考えていなかった。この芸術祭が続いたのは、亀岡市の思いや誰かの希望であったかもしれないけれど、ぼくはあたかも小説の中の主人公が作者の意図とは関係なく小説の中の物語をリードすることがあるように、芸術祭そのものが人格を持ちその人格が僕たちを駒のように突き動かしているのではないかと感じることがよくある。特に新型コロナウィルスとの共存の道筋を模索する中、いろんな催しが延期や中止され、年をまたぎ越し翌年へと先送りされるという経験は僕たちの意思や計画とは別次元の逆らえない次元の力を明らかにしてくれたと思う。まさに人類の意思と自然との共存を再度模索し新しい日常を作り出す取り組みがこの芸術祭に求められているのだと思う。

そんな中、ウイルスとの戦いや国と国との戦闘といった二極化や分断が加速化し、ウイルス以前に人類が自滅に向かっているかのような矛盾した世界の動きを誰も止めることができない。なぜか？

新しい日常ってなんだ？　確かに生活様式や働き方は変わったし今後も変えなくてはならないかもしれないけれど、移動ごとの殺菌、日常的な除菌、新しい生活様式で果たして感染は止んだか？　それで生活の質が良くなったか？　それを生活と呼べるのか？

長い人類の生活史の中でこれほど触れ合いを拒絶する時代はなかった。こんな時代が何年続くのかだれも予測できないでいるが、そもそも免疫とはウイルスに感染することで得られた抗体による生体防御機構なのだから、感染することで新しい防御機構を持つ身体に生まれ変わらない限り、新しい日常はやってこない。そうだろうか？　ぼくたちはこのコロナ下、何度かの挫折を経験し2回の霧の芸術祭を開催した。そのことは亀岡市の英断であり、実行委員会の不確かな時代を芸術の力で生き抜こうという強い意志を感じた。これまでの市の取り組みが評価され2020年度「SDGs未来都市」に選定された。その際の政策提案「かめおか霧の芸術祭 × X（かけるエックス）」のXは環境であったり農政、教育、福祉といった亀岡市の行政の窓口で、それぞれが抱える課題を芸術的に解決する形や仕組みを考えるというマニフェストだ。これまで4年間を通して数々のイベントやワークショップを催してきたが、その実施によって得られた結果もさることながら、その過程での人の繋がりの広がりはこの街の新しい日常の生活様式の基礎になるものだったと思う。

Kameoka Kiri Art Cultivation、「かめおか霧の芸術祭」は祭ではなく日常に焦点を当て続けてきた。「霧」を象徴として、地域に暮らす人々の暮らしこそが『アート』そのものであるとの視点から、亀岡市一帯でアートを耕し、人と地域の魅力を育てる芸術祭として2018年から続けてきている。前回より分散型やオンライン化によって様々な芸術的コンテンツが共有しやすくなり参加者も増えてきている。むしろ非接触型のイベントの方が全国の視聴者に届いたり、オンラインとリアルを融合したワークショップや講演、展覧会の来場者数の伸びが堅調であったり、この時期でなければ気づかなかった新しい芸術祭の可能性を模索できている。

芸術が人の心を打ち素晴らしい世界を見せてくれることは素敵だけれど、そのことで新しい日常を得ることができないならそれは神話の世界のこととして、ぼくたちは終わらない日常を裏返し透かし見ることで、だれもが、新鮮な日常に変えることができる『魔法』を編み出さないといけない時が来ていると思う。

松井 利夫（まついとしお）
かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー。陶芸家
1980年、京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了後、イタリア政府給費留学生として
国立ファエンツァ陶芸高等教育研究所にてエトルリアのブッケロの研究を行う。
帰国後、沖縄のバナリ焼、西アフリカの土器、縄文期の陶胎漆器の研究や再現を
通して芸術の始源の研究を行う。近年はたこつぼ漁、野良仕事に没頭し人間の営みが
芸術に変換される視点と場の形成に関する研究を重ね、公開講座「ネオ民藝」を運営する。
現在：京都芸術大学教授、滋賀県立陶芸の森館長、IAC国際陶芸学会理事。

新しい何かを創造する試み

亀岡市から離れて1年半あまり。物事は少し離れた方が分かるものとも言われるが、この市の魅力を一言で語るのは難しい。四季折々の風景、地域ごとに紡がれてきた文化芸能や歴史、自然の恵みを感じる食ーこうした世の中にあふれた様々な言葉を集めても、どこか違う気がする。

ここを見ておけばよい、これを食べておけば間違いがない、といういわば満場一致の解答がないことこそ、亀岡市の魅力の豊かさを物語る。

それは「かめおか霧の芸術祭」を育む土壌ともなった。参加するアーティストによって、まちの姿の取り出し方や解釈が異なる。あるいは、同じ地に拠点をおいて活動していても、表現したい題材や作風を全く異にする。そして、創作活動は日々行われている。私たちが呼吸をするように、町並みがゆっくりと変わっていくように。

霧の芸術祭は、亀岡市というまちの美しさを見つけて、育てて、収穫し、また次代につなげる事業であり、自然そのものの美しさだけでなく、まちを舞台に繰り広げられている私たちのさまざまな営みーものをつくり、あるいは土を耕し、技術や知恵を伝承し、身体や頭脳を働かせて、新しい何かを創造することーに価値を見出す試みである。

そのため、ここでいう「芸術」の定義は、私のような素人が連想する芸術よりもっと広い。また、霧の芸術祭に関わる人々には、芸術家もいれば、それ以外の職業の者も多くいる。だからこそ、多彩な事業が生まれ、発見があった。

・土地の歴史や自然、そこに住まう人々の営為に目を向けた展覧会
・感性に響く対話や手を動かすワークショップ、世界の広がり
・変わった屋台と個性的な農家の集まり、「農」に魅せられること
・行くたびに心躍るマルシェ、地域経済とのつながり
・古民家を改装したカフェ、市内外からの人の集まり
・捨てられてしまうものが素敵な商品に生まれ変わること、持続可能性
・環境や教育、SDGsにおいて、これまでと異なるアプローチがありえること

ここに書ききれない霧の粒のような無数の取組みがあり、霧の芸術祭としてこれからも広がっていく。それは、異質なものに触れること、多様であること、見えていなかった価値に気付くこと、自分で何かを創り出すこと、人に伝えること、交流を通じてさらに良くなること、という一連の活動である。私は、これらはまちづくりの鍵だとも思っている。

一言で表しにくいことは、かつて批判の種ともなった。しかし、開かれたアトリエがひらかれて、多くの人が出入りをし、霧の中に包まれていた「もやもや」に少しずつ光が差していれば、とても嬉しい。

仲山徳音（なかやまなるね）
前亀岡市副市長（現市政アドバイザー）
東京大学法学部卒、清華大学金融学院高級進修生、インシアードMBA修士。2011年に大学卒業後、官僚として10年働く。中国・フランスへの留学を経た後、人口減少下でも持続可能な社会づくりを目指し、2018年より亀岡市役所に赴任。2019年から2020年まで副市長を務め、在任中に「かめおか霧の芸術祭」をテーマに、若手職員4名と出場した内閣府「地方創生アイデアコンテスト2019」で最優秀賞を受賞。芸術祭を基点に社会課題の解決をも試みるアプローチを事業構想としてまとめ、亀岡市がSDGs未来都市として政府認定されるきっかけとなる。現在は退官し、民間企業の立場から持続可能性を探求中。

50年先、100年先も安心して暮らせるまちへ

2030年を達成期限として、世界中が取り組んでいる「持続可能な開発目標（SDGs）」をご存知の人も多くいらっしゃると思います。その実現に向けて、亀岡市も様々な取り組みを進めています。

私がSDGsアドバイザーとして亀岡市とのご縁をいただいてから、もうすぐ2年が経過します。その間、市内のあちらこちらに足を運んでいますが、地域のことを知れば知るほど、亀岡のことが大好きになっています。

亀岡のSDGs推進の中心となる「かめおか霧の芸術祭」は、亀岡の暮らしに身近な「霧」を象徴に据え、著名なアーティストだけでなく、亀岡で生きる私たち一人ひとりが「芸術家」であると捉えている点が特徴的で、実際に私たちが参加できる様々な場が通年で設けられています。

例えば、「地域の循環」をテーマに開催されている「ボンボンマルシェ」もそのひとつです。足を運んでみると、シルクスクリーンに好きな図柄をプリントできるワークショップが行われていたり、天然砥石で包丁研ぎ体験が行われていたり、地域で暮らす「芸術家」たちが、訪れる人たちも「芸術家」になれる機会を与えてくれます。

今年度から市に設置されたSDGs創生課も、ボンボンマルシェに出展し、人型ロボット「Pepper（ペッパー）」を通じてSDGsをお伝えしたり、亀岡市出身のフォトグラファーである江見彩香さんが撮影した亀岡の日常風景の写真と、その景色の中でどのようなSDGsに関連する要素があるかの説明を添えた展示を行ったりしています。

ボンボンマルシェが開催される「開かれたアトリエ」は、亀岡市のSDGsを推進する拠点としての機能もあります。その設計段階で市民参加型のワークショップを開催し、寄せられた多様な意見を反映しており、作品を展示する空間、子どもが絵本を読んでくつろげる空間、コワーキングスペースとして使える空間など、市民の想いが詰まった場所と言えます。こうした参加型の意思決定の過程も、17あるSDGsの目標のひとつ「平和と公正をすべての人に（目標16）」に関連しています。そして、資源循環コーナーや、誰もが利用できる図書コーナーも設置され、開かれたアトリエ自体がSDGsを象徴する場所になっていると言えます。

「開かれたアトリエ」が整備されたことで、これまで互いに出会わなかった人たちが集い、新しい取り組みが始まることもあるでしょう。そして、多くの人の強みが掛け合わさることで、地域の課題が解決されたり、より楽しいまちになったりする、そんな姿が少しずつ現実になっていると感じています。

「かめおか霧の芸術祭」、そして「開かれたアトリエ」を亀岡市民がつながる「結び目」にして、50年先、100年先も安心して暮らせる亀岡を共に創っていきましょう。

高木超（たかぎこすも）
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
特任助教
NPO等を経て、2012年から神奈川県大和市役所の職員として住民協働等を担当。17年9月に退職し、渡米。クレアモント評価センター・ニューヨークの研究生として「自治体における SDGs のローカライズ」に関する研究を行い、帰国後の19年4月から現職。国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット研究員、内閣府地域活性化伝道師のほか、亀岡市や鎌倉市、川崎市などの自治体でSDGsに関するアドバイザーを兼務。近書に『公民連携×SDGs 先進地域に学ぶ課題解決のデザイン』（学芸出版社）など。

開かれたアトリエ展覧会

地域の魅力を掘り起こす市民参加型の展覧会

Q｜開かれたアトリエ展覧会とは？

A｜「開かれたアトリエ」を会場として季節ごとに開催している展覧会です。亀岡市が持つ潜在的な魅力を掘り起こし、展示にいたるまでの制作過程を公開したり、市民参加型の企画を行ったり、作家と市民が交差する場を設けたりすることで、新たな芸術の価値観やコミュニティの創出を図っています。

Q｜他の展覧会と異なる点は？

A｜一番は市民参加型の展覧会という点です。コロナ禍でなかなか難しいところもありましたが、準備段階から市民の方と一緒に展示会場を作ったり、第3回展覧会「街と巡」で行ったように、市民の方の写真を展示に加えるなど、展示を見てもらうという一方向ではなく、展示に参加してもらうという双方向の展示会を常に意識しています。

Q｜展示の際に特に意識していることは？

A｜市役所内の各課との連携です。図書コーナーのテーマと連動性を持たせて、複合的に亀岡の魅力を掘り起こすような展示を心がけました。第2回展覧会「農と林」では亀岡市内の木工作家さんに出展していただいたりと、ひとつの展示企画にたくさんの方が関わるようなことも意識しました。

企画担当

副産物産店

美術家の矢津吉隆と山田毅のユニット。アーティストのアトリエから出る魅力的な廃材を“副産物”と呼び、回収、活用する資材循環プロジェクト。それぞれの作家の感性を帯びた作品未満のそれらのモノたちに敢えてスポットを当てることで、ものの価値や可能性について改めて考える機会をつくっている。

「土と種」

2021年6月21日（月）－8月1日（日）

市が所有している美術工芸品の中には、収蔵庫に収められてなかなか市民の目に触れる機会の少ない作品もあります。こうした美術工芸品を多くの市民に親しんでもらおうと、亀岡ゆかりの作家の絵画、陶磁器など18点を展示しました。

「農と林」

2021年10月4日（月）－11月28日（日）

亀岡市は令和3年7月10日に「ウッドスタート宣言」を行いました。本企画では農林振興課と連携し、未来に向けて野山の環境に目を向け、そこから河川・農地へと繋ぐ展覧会を開催しました。期間前半はアトリエでの滞在制作を行い、日々描かれていく芸術に触れる機会を創出し、期間後半では市内の木工作家による作品を展示しました。

滞在制作展

「安藤隆一郎」

2021年10月4日（月）－11月28日（日）

まだ使えるのに処分される民具を文化的活用資源として救出し活用する「民具バンク」の取り組みを展示しました。

滞在制作展

「YUKO KIMOTO」

2021年10月4日（月）－10月25日（月）

滞在期間中に亀岡の「農と林」をテーマにした絵を1枚ずつ制作し、全部で9枚の絵を繋ぎ合わせて1枚の絵に仕上げる大作を描きました。

亀岡木工作品展

2021年11月1日（月）－11月28日（日）

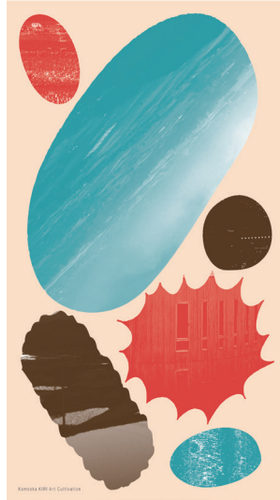
亀岡市内で木工作品や家具などを制作している木工作家にスポットをあて、それぞれの作家の作品を展示しました。

＜出展作家＞
16studio 高橋博樹／nobu notes 松下展之／Yoshida Wood Studio 吉田欣司／大矢一成／木工房OKA 岡裕介／木の香アート「まどころ」藤村吉次／組ム木工房 黒岩絵里子／幸工房 飯田幸夫／ひよことパンダの木工店 川崎忍／松永弦楽器工房 松永尚悟／森太三

「街と巡」

2022年1月15日（土）－2月10日（木）

商工観光課と連携して、かめおか観光PR大使の秋本治さんが描く亀岡市を舞台とした漫画「ファインダー－京都女学院物語－」の作品展示を行うとともに、市民が自分でも写真を撮って参加できる市民参加型の展覧会を行いました。



市民参加型の写真展示

「街と巡」

秋本治さんの漫画「ファインダー－京都女学院物語－」の作品展示に合わせて、市民がファインダーを通して撮った写真をSNS上で集めていきました。展示の開始当初はまっさらだったパネルが週を重ねるごとに徐々に写真が増えていき、会期が終わる頃には一面が市民の方々から投稿された写真で埋め尽くされました。

子どもたちとつくる展示

「霧のまち」

子どもたちとつくる想像の街「霧のまち」を表現する展覧会。「こんなまちあったらいいな」「こんな遊び場あったらいいな」という子どもたちの想いを、美術家のアトリエから出る木片を組み立て形にし、思うままの街がたちあがりました。

ワークショップ

「木片で霧のまちをつくろう」
「絵本の読み聞かせ」

2022年1月23日（日）

開かれたアトリエ 図書コーナー

季節に合わせた選書が並ぶ

Q｜図書コーナーとは？

A｜かめおか霧の芸術祭と亀岡市立図書館が連携し、季節ごとにテーマを変えて選書した約400冊の本を配架しています。2021年度は「土と種」「音」「霧」「衣」の４つのテーマで選書を行いました。開かれたアトリエ内で自由に読書を楽しんだり、気に入った本は図書館で借りることもできます。

Q｜選書で特に意識していることは？

A｜この本棚からさまざまな先人たちの知恵に触れ、一歩立ち止まり、生活を考え、それぞれの日常に知恵をもって帰れるような本を選んでいます。また本棚では季節ごとに大きなテーマはあるもののそれ以外の本も多くあり、意図していないところでの発見や様々な思想に出会えるように日々工夫しています。そして、ワークショップや展示を通して、五感を使って体験する本との関わりあいをつくっています。

企画担当

山成研究所

辰巳雄基（収集家／芸術家）と大垣留衣（ものづくり科学実験教室主宰）の2人が行う、遊びと読書と手づくりと土づくりをすすめる研究所。主にこどもとの活動をとおして、身近なものごとを発見する場をつくる

選書テーマ「土と種」

2021年4月14日（水）－8月1日（日）

第一回目のメインテーマは「土と種」。「周りに当たり前にあるものや出来事に目を凝らし、観察し、考えて触れてみるきっかけをつくること」、「微生物の目線、雑草の目線、木の目線、種が循環するという環境を考えること」を軸に企画しました。

ワークショップ

「土のどうぶつづくり」

2021年7月3日（土）

こどもたちを対象に、開かれたアトリエの庭の土に水をかけてこねて、動物のようないきものをつくります。周りにある枝や葉っぱ、花なんかも一緒に使い、子どもたちと親たちとたくさんのいきものをつくりました。

読み聞かせ

「土と種の紙芝居」

2021年7月3日（土）

亀岡市立図書館　司書内藤さんによる読み聞かせ

選書テーマ「音」

2021年8月2日（月）－10月29日（金）

日々たくさんの音にかこまれながら生活する私たち。川や森の響き・虫や鳥の声・家の中や外の様子。ふだんなにげなく聞いていたり、感じたりする音に耳ををすまし、いつもある景色や出来事によりそうことで心を動かしたり、新しい発見をする。そんな宇宙や世界に触れなおすきっかけにとテーマを選びました。

展示

「Cicada」

2021年10月1日（金）－10月17日（日）

アーティスト八木良太さんによる、蝉の音響作品の展示。開かれたアトリエには季節ハズレの蝉の鳴き声が響きました。

「亀岡祭」

2021年10月18日（月）－10月31日（日）

2年連続で中止となった亀岡祭についてふれられるように亀岡祭山鉾連合会に協力いただき楽器や映像、資料などを展示。お囃子が流れる中で、亀岡の郷土食が食べられるようにと アトリエカフェ協力のもと、定食など提供いただきました。

選書テーマ「霧」

2021年11月1日（月）－1月31日（月）

季節が秋から冬になり、亀岡に丹波霧が発生する季節いろんな視点で霧は自然と共にある生活を考える機会をくれます。いつもある景色や出来事に寄り添うことで心が動いたり、新しい発見をする。みえていなかった世界に触れなおすきっかけにとテーマを選びました。

ワークショップ

「木片で霧のまちづくり」

2021年11月28日（日）、2022年1月23日（日）

美術家 森太三さんの作品からでてくる色とりどりの木端を組み合わせクルマや家・ビル・山・動物など思い思いの霧のまちを参加者につくってもらいました。

展示

「霧のまち」

2022年1月15日（土）－2月10日（木）

読み聞かせ

「霧の絵本」

2022年1月23日（日）

亀岡市立図書館　司書内藤さんによる読み聞かせ

選書テーマ「衣」

2022年2月1日（金）－4月30日（土）

第四回のメインテーマは「衣」。衣といったら服が思いつくかもしれませんが、コロッケや天ぷらの衣、虫にとったら身体を守る家となる衣など、衣の中にも衣食住がある。冬から春にかけて、衣を変えるというが、様々な概念としての衣をテーマに選びました。

ワークショップ

「はぎれでマントづくり」

2022年3月27日（日）

たくさん集まったはぎれでマントをつくりました。

読み聞かせ

「衣の絵本」

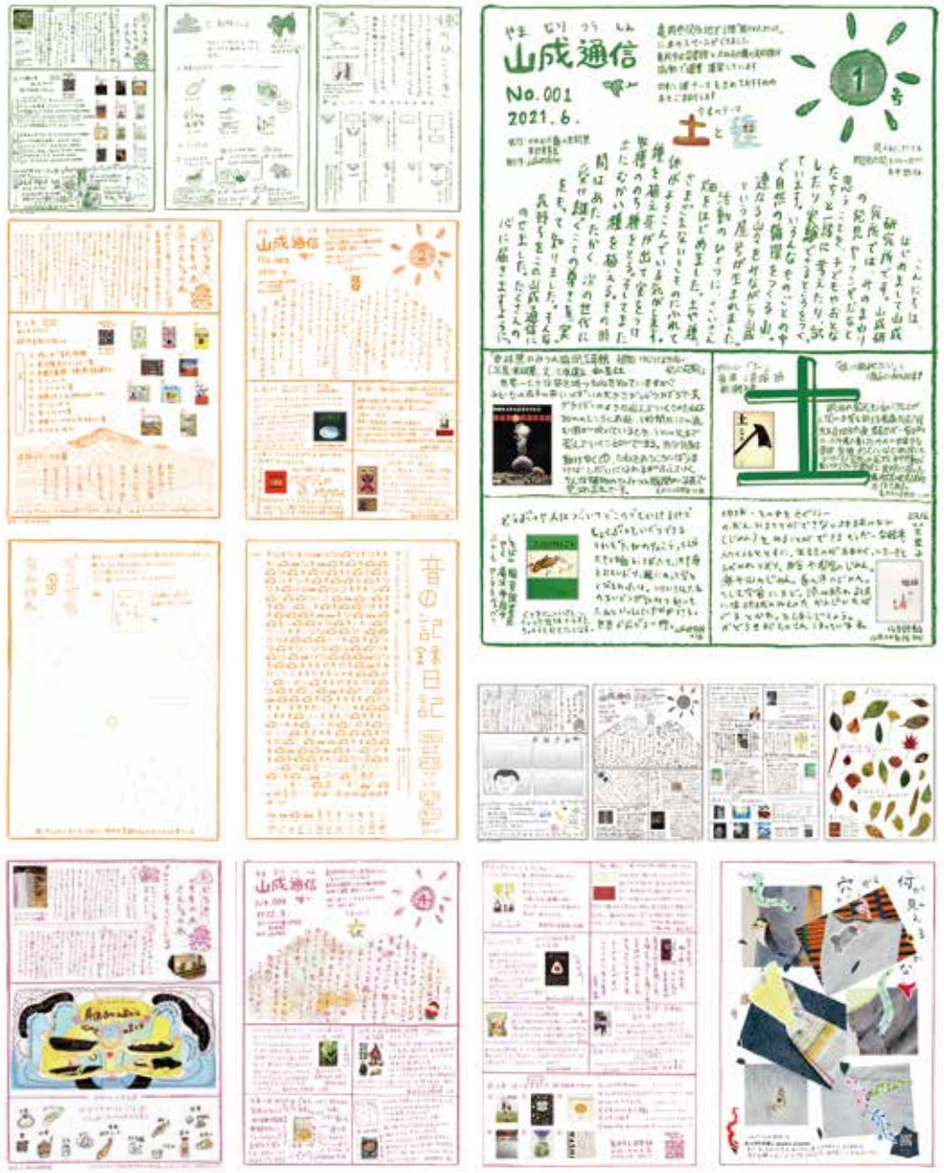
2022年3月27日（日）

亀岡市立図書館　司書内藤さんによる読み聞かせ

山成通信

本と遊びのすゝめ

図書館司書さんと芸術祭メンバーから本の紹介と遊びの紹介また町の人に聞いた話などを掲載。
身のまわりの発見や不思議だなと思うことを、子どもや大人たちと一緒に考えたり、
試したり、実験できることがとても大切だと思っています。そんな気持ちをこの山成通信に載せています。



ボンボンマルシェ

“循環”をテーマにした新しいマルシェの形

Q｜ボンボンマルシェとは？

A｜フランス語の「ボン=良い」と亀岡の「盆」を掛け合わせてネーミングしました。“亀岡市内のモノ・ヒト・食の循環”をコンセプトに、<アップサイクルや修理><亀岡産の食べ物><亀岡ゆかりの作家の作品>の3つを軸に、生活に寄り添い、亀岡市の皆さんだけでなく、亀岡に興味を持ってくれている方とも愛着の湧く日々を作るマルシェです。

Q｜企画で特に意識したことは？

A｜人々がコミュニケーションを取ることで成り立つ企画、空間づくりです。一方的なコミュニケーションによって消費する仕組みではなく、関わる方々と発見したり、心が動く体験を目指しました。たとえば「お直し」では物を直して使いたい人とそれを直せる人がいることで成り立つ関係性があり、「本の物々交換市」では要らなくなった本が人に渡ることで改めて楽しむきっかけになっています。物の寿命が延びると同時に、コミュニケーションを通じて楽しみながら生活を送るきっかけになっていると感じています。

Q｜1年間行ってみての感想や感触を教えて下さい

A｜回を重ねることで、直したい洋服や物々交換の本が多く集まりました。そして、このイベントを通じて参加者の中にインスピレーションが湧き、新たにやってみたいことが生まれるなど、小さな連鎖が数々起きていることが面白いと感じています。“買い物に行こう・面白そうだから行こう”から“次にこれを持っていこう、何か面白いことが起こるだろう”というような意識・行動に変わっている方がいらっしゃることに希望を感じます。

企画担当

佐藤友佳
神奈川県出身。武蔵野美術大学卒業。ラッパー・音楽家。
イギリスで出会った友人の展示を見るためKIRICAFEを訪問したときに、農業について老若男女・文化的背景が異なる人々が話し合っている光景が日本とは思えなかったため、「日本ではないみたいだ！すごい」と思い、KIRICAFEでの滞在半日で亀岡へ移住を決める。

ボンボンマルシェ Vol.1

2021年7月25日（日）10:00－16:00
at. 開かれたアトリエ

初めての開催となった第1回目は特に修理やお直しといった資源の循環にスポットをあて、読まなくなった本の交換や廃材を使ったワークショップ・修理相談などの企画を行いました。
地域の飲食店をコラボして亀岡の食材を使った特製シロップのかき氷や亀岡の名産品の販売、石臼の抹茶挽き体験、松ぼっくりを使った射的など、亀岡の魅力に触れられる企画も数多くを実施しました。

<出店者>
〇お直し・修理
漆器修繕くらぶ、あっぱれお直し、副産物産店、本の交換市
〇飲食・食材
パティスリーベルル、くらしゴトLabo、つきよみ、&laboratory、かめまる有機給食協議会
〇体験・物販
Harvest Journey kameoka
〇おたのしみ
山成射的
〇フードバンク
くわの実保育園、はこべ保育園

ボンボンマルシェ Vol.2

2021年11月28日（日）10:00－16:00
at. 開かれたアトリエ

第２回目の“お直し”では洋服のお直し、椅子の座面の張替え、包丁研ぎの３つを行いました。また飲食では亀岡の食材を使った豊かな出店者が揃い、お腹も満たされながら、亀岡の新たな食の魅力を知るきっかけになりました。
有機野菜の販売では、プラスチックによる梱包をやめる取り組みを今回実験的に行いました。実際に農家の方と話すことで、どのように野菜を食べると美味しいかといった会話が生まれる機会にもなりました。

＜出店者＞
〇お直し・修理
tossto/トスト、砥取家（ととりや）、あっぱれお直し、本の交換市
〇飲食・食材
ネコのしっぽ、SATSUMA KITCHEN、Sarten（サルテン）、KIRI CAFE、かめまる有機給食協議会
〇体験・物販
HOZUBAG、木の香アート「まどころ」、nobu notes、幸工房、木片で霧のまちをつくろう！、食べる畑ツアー（Harvest Journey Kameoka）、民具救出屋、陶土でつくる箸置きワークショップ（陶工房 しの平窯）、ペッパーとSDGsを学ぼう！
〇フードバンク
くわの実保育園、はこべ保育園

ボンボンマルシェ Vol.3

2022年３月６日（日）10:00－16:00
at. 開かれたアトリエ

亀岡の個人で営む和菓子屋さんが勢揃いした特別な和菓子BOXの販売や、減農薬・有機肥料で栽培したイチゴ、自然派のワイン、ハーブティー、スイーツなど、今回も地域の魅力を集めました。お直しコーナーでは洋服のお直しにインテリアコーディネートの相談コーナーも登場。漆体験コーナー、スタンプ・プリント体験、石臼のお茶挽きなどの体験を通して触れて楽しむコーナーも充実しました。さらにボンボンステージが登場し、熊澤洋子＆きしもとタローによる演奏とお話で、遠い国の暮らしや文化がとても身近に感じられました。

＜出店者＞
〇お直し・修理
あっぱれお直し、副産物産店、本の交換市
〇飲食・食材
VINOGRAD（ヴィノグラード）、HOZUBAG、かわかみ茶葉店、KURKI COFFEE、アトリエカフェ、宮前農園のいちご、八助（日本蜜蜂の生はちみつ）
〇体験・物販
「シャ！」と「ポン！」でプリントあそび（bluff）、空飛ぶうるしの店ーこどもうるし体験プロジェクトー、Harvest Journey Kameoka
〇演奏・トーク
熊澤洋子＆きしもとタローによる演奏、亀岡市ってどんな街？（亀岡市の環境政策やSDGsの取り込みについて）
〇フードバンク
くわの実保育園、はこべ保育園
〇街の和菓子を巡る　参加店
日の出、匠大、塩武、音羽屋菓子舗、ふじ幸、あずきの里、リカーショップ寿屋、朝日堂

KIRI² 芸術大学（きりきりげいじゅつだいがく）

暮らしを豊かにする知恵や技を学ぶ年間講座

Q｜KIRI² 芸術大学とは？

A｜亀岡には芸術家や伝統ある文化を受け継ぐ職人をはじめとする多彩な人が暮らしています。亀岡の自然に影響を受けた様々なアーティストを講師に招き、暮らしを輝かせる知恵や技を学ぶ講座を年間を通して開催しています。

Q｜講座で特に意識していることは？

A｜単に知恵や技を知って終わりの講座は作りません。そのものの裏側にある文化や歴史も学び、またその知恵や技を身につけることで講座後の受講者の暮らしが豊かになっていくことをイメージしてプログラムを考えています。

Q｜特に印象に残っている講座はありますか？

A｜副産物産店のお二人を招いて開催した「ものを視るためのデッサン教室」です。この講座は絵を上手に描けるようになるための講座ではありません。デッサンを通して、ものを深く観察する視点を身につけることを目的としました。このように具体的なノウハウを得る講座ではなく、芸術に触れることで日々の暮らしの見え方がより豊かになる講座としてKIRI² 芸術大学らしい内容となりました。

企画担当

佐藤壮一郎
自然に寄り添った暮らしに憧れ2020年に亀岡に移住。訪問鍼灸師、訪問介護員を経て、現在は千歳町にて亀岡千歳鍼灸院を営む。日本の伝統文化として東洋医学を発信する。

日程	講座名	講師	開催場所	
4月10日（土）	春景色を油画でかこう！	上林和統	KIRI CAFE	
5月1日（土）	こだわりの金物を作る野鍛冶体験	堀田典男	KIRI CAFE	*
5月9日（日）	映像配信の裏側を学び、機材で遊ぼう！	中川哲光	開かれたアトリエ	*
5月16日（日）	金継ぎで器を再生しよう	栗本夏樹	開かれたアトリエ	*
5月22日（土）	「ふれるにふれる」触覚日記を作ろう	佐藤壮一郎	KIRI CAFE	*
5月23日（日）	光るお家のオブジェを作ろう	森太三	開かれたアトリエ	*
5月29日（土）	路上観察部	八太栄里	開かれたアトリエ	*
6月5日（土）	ものを視る為のデッサン教室	副産物産店	開かれたアトリエ	*
6月5日（土）	こだわりの金物を作る野鍛冶体験	堀田典男	KIRI CAFE	*
6月12日（土）	梅雨のカラダを楽しむお灸体験	佐藤壮一郎	KIRI CAFE	*
6月13日（日）	クレイアニメで「動く」オリジナルスタンプをつくろう！	コイワシ	開かれたアトリエ	*
6月19日（土）	金継ぎで器を再生しよう	栗本夏樹	開かれたアトリエ	
6月26日（土）	彫るヒノキの折敷づくり	吉田欣司	開かれたアトリエ	
7月3日（土）	ものを視る為のデッサン教室	副産物産店	開かれたアトリエ	
7月4日（日）	路上観察部	八太栄里	開かれたアトリエ	
7月10日（土）	光るお家のオブジェを作ろう	森太三	開かれたアトリエ	
7月18日（日）	彫るヒノキの折敷づくり	吉田欣司	開かれたアトリエ	
7月31日（土）	夏のカラダを楽しむお灸体験	佐藤壮一郎	KIRI CAFE	
8月1日（日）	見えないものを見るvol.1ゴミの気持ちを考えよう	Deep Care Lab	開かれたアトリエ	
8月8日（日）	2021 霧が育てる保津そば九十日の旅①	西村文夫・中野恵二	保津町第五区会議所前の畑	
8月8日（日）	石を通して自分を描こう	山田愛	開かれたアトリエ	*
8月9日（月）	よもぎを摘んでカラダを楽しもう	佐藤壮一郎	KIRI CAFE	*
9月11日（土）	2021 霧が育てる保津そば九十日の旅②	西村文夫・中野恵二	保津町第五区会議所前の畑	*
9月11日（土）	こだわりの金物を作る野鍛冶体験	堀田典男	KIRI CAFE	*
9月12日（日）	自分だけの金継ぎアクセサリーを作ろう！	金潤姫・安井友幸	開かれたアトリエ	*
9月25日（土）	クレイアニメで「動く」オリジナルスタンプをつくろう！	コイワシ	開かれたアトリエ	*
10月9日（土）	2021 霧が育てる保津そば九十日の旅③	西村文夫・中野恵二	保津町第五区会議所前の畑	
10月16日（土）	路上観察部	八太栄里	開かれたアトリエ	
10月16日（土）	本漆を使う本格的金継ぎ講座	金潤姫、安井友幸	開かれたアトリエ	
10月17日（日）	ものを視る為のデッサン教室	副産物産店	開かれたアトリエ	
10月23日（土）	ヨモギを摘んでカラダを楽しもう	佐藤壮一郎	KIRI CAFE	
10月30日（土）	気候危機をめぐる、過去・未来との対話	Deep Care Lab	開かれたアトリエ	*
11月6日（土）	2021 霧が育てる保津そば九十日の旅④	西村文夫・中野恵二	保津町第五区会議所前の畑	
11月21日（日）	親子でたのしい！はじめての洋裁教室	鈴木遥平・鈴木実可子	開かれたアトリエ	
11月28日（日）	秋の養生　女性のためのお灸教室	佐藤壮一郎	KIRI CAFE	
12月4日（土）	自分だけの金継ぎアクセサリーを作ろう！	金潤姫・安井友幸	開かれたアトリエ	
12月5日（日）	こだわりの金物を作る野鍛冶体験	堀田典男	KIRI CAFE	*
12月11日（土）	2021 霧が育てる保津そば九十日の旅⑤	西村文夫・中野恵二	Farmhouse NaNa	
12月18日（土）	クリスマスアニメーションを作ろう	コイワシ	KIRI CAFE	*
1月15日（土）	そばの成り立ちから味わう、新そばを楽しむ試食会	西村文夫・中野恵二	亀岡市下矢田町	
1月22日（土）	自然を感じて心と体を温めよう	佐藤壮一郎	KIRI CAFE	
2月5日（土）	押花のコラージュを作ろう	畑美沙子	開かれたアトリエ	
2月6日（日）	路上観察部	八太栄里	開かれたアトリエ	
2月19日（土）	こだわりの金物を作る野鍛冶体験	堀田典男	KIRI CAFE	
2月26日（土）	撮ることで芸術家のストーリーに触れよう	清水泰人	開かれたアトリエ	
3月5日（土）	親子で学ぼう！お家で使う電気や熱のこと	山見拓	KIRI CAFE	
3月12日（土）	砂遊びの民具を作ろう	安藤隆一郎	鹿谷ワンダービレッジ	*

＊開催中止

KIRI WISDOM

先人の知恵を学ぶトークセッション

亀岡にゆかりのある芸術家を初めとして多様な人々を招いて対談する中で、アートやデザインの視点から身近なものや暮らしの中を見つめ直し、生き方のヒントとなる知恵や物語をみつけるトークイベント「KIRI WISDOM」。2020年度からコロナ禍でも開催できるようにオンラインで実施してきました。2021年度も概ね月に一度、オンラインを主軸に行いました。
また今年からの取り組みとして「お土産付きチケット」も用意。聞く見るだけのオンライン体験から実際にものが届き、匂い、触れるような体験をつくりました。

○企画・運営
（一社）きりぶえ

開かれたアトリエから閉じた世界へ1
2021年4月17日（土）
登壇者：吉村静、松井利夫

カラダの中に記憶する　身体と道具の使い方
2021年6月30日（水）
登壇者：安藤隆一郎、大村大悟

食材と遊び戯れるためのレシピ
2021年9月24日（金）
登壇者：小桧山聡子、松井利夫

子どもたちにひき継ぐ知恵
2021年11月29日（月）
登壇者：鈴木潤、丹下紘希

「不安」と「安全」
2022年3月19日（土）
登壇者：米谷健＋ジュリア

亀岡という＜舞台＞に生まれる作品や風景
2021年5月26日（水）
登壇者：武内昭、奥山理子、武田幸子

皿の上の記録とブータンの日常
2021年7月30日（金）
登壇者：小林舞

リアルに対する渇望
2021年10月2日（土）
登壇者：酒井義夫、原田陽子

開かれたアトリエから閉じた世界へ2
2021年12月29日（水）
登壇者：吉村静、松井利夫

祭りから知る ハレとケ
2022年3月26日（水）
登壇者：トム・ヴィンセント、松井利夫

映像をみよう 対話をしよう「だれかとはひふへほの会」

誰もが認め合うまちづくりへ

「対話」ってなんだろう？ 会話とどう違うの？ 議論とどう違うの？ そんな問いから対話プロジェクトは始まりました。相手に言い勝つとか打ち負かすとか、どちらが正しいとか、そういったことを一切求めず、年齢や職業、身分などもすべて脱ぎ捨てて、みんなが一人の人間として対話する。そんな「対話」を通して、誰もが認め合うまちづくりができないかと、「開かれたアトリエ」を舞台に「映像を見よう 対話をしよう だれかとはひふへほの会」がスタートしました。
亀岡市のSDGs啓発動画「しぜんの中のちいさな会議」の監督を務めた映像作家の丹下紘希さんが進行役となり、2021年度は全4回の対話の会が催されました。

第1回
「国際平和映像祭」受賞作品を見よう
2021年10月29日（金）

第2回
映画「ビッグ・リトル・ファーム」を観よう
2021年11月26日（金）

第3回
「少し深く話をしてみよう」
2021年12月22日（水）

第4回
「教育ってなんだろう？」
2022年2月25日（金）

at. 開かれたアトリエ

○企画進行
丹下紘希

食プロジェクト

亀岡の季節の野菜を使ったメニュー開発

丹波霧が育む亀岡の野菜たち。地元農家の方々が手間を惜しまずに育てるオーガニック野菜。こうした地域で採れるこだわりの旬の野菜を余すところなく美味しくいただく。そんなことから始まった食プロジェクト。
旬を迎えて採れすぎてしまう余剰野菜や、不揃いで一般の販売へは回せない野菜なども活用してフードロスにも配慮する。
自身も農家でありながら自然料理の料理人としても活動する高橋農園の髙橋慎也氏を監修に迎え、アトリエカフェとコラボして季節ごとに移ろうメニューを考案しました。食プロジェクトの第一弾メニューは季節の野菜を用いたスープ＆ポタージュ。季節の魅力をギュッと閉じ込めた味わいとなりました。

「春人参のポタージュ」
2021年5月15日–
「じゃがいもの冷製ポタージュ」
2021年8月25日–
at. 開かれたアトリエ

○料理人
高橋慎也（高橋農園）

第1弾 春人参のポタージュ

第2弾 じゃがいもの冷製ポタージュ

料理人・農家・陶芸家による 春のキムチ漬けワークショップ

2021年7月3日（土）

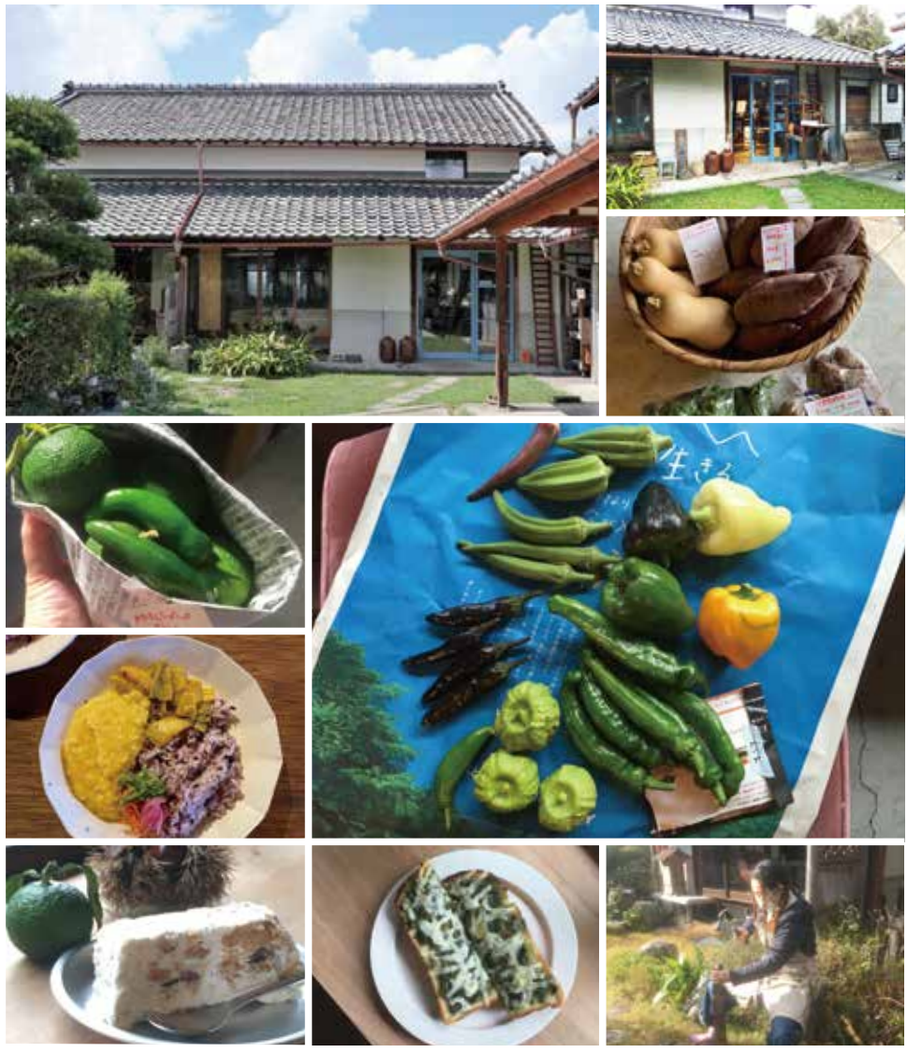
とれたての有機野菜をつかい、講師と共に無添加キムチをつくりました。
自家製塩辛も贅沢に使った季節の野菜でつくる無添加のキムチ。いろんな材料を味見してみたり、素手で唐辛子を混ぜて、手がじんわりあったかくなるのを体験したり。
たくさんつくって持って帰り、浅漬けのころからちょっとずつ食べて熟成まで変化を楽しんだり。つくったキムチは球体アイさんにつくってもらった特製キムチ壺に入れてお持ち帰りいただきました。
ワークショップ後には試食会も行い、ランチを囲んで参加者同士で交流も深めました。

○講師
家の実（いえのみ）、球体アイ

KIRI CAFE

多彩な人と情報が集まり繋がる場

亀岡市千歳町にある古民家を京都芸術大学（旧 京都造形芸術大学）の学生とともに改修し、芸術祭の情報発信とそこに集う人から亀岡のさまざまな情報を教えてもらい芸術祭に生かしていく目的で2018年にグランドオープンしました。
亀岡の旬の食材を使ったメニューを提供し、農家さんの仕事や栽培方法などを伝えたり、亀岡へ移住を考えている方と芸術祭の取り組みや亀岡の暮らしをお話ししたり、カフェの機能を生かした情報発信を行っています。
また、キリカフェに集う人たちと「亀岡でこんなイベントがあったらいいよね」と話し込み、蚤の市を開催したり、「こんな技術をもった人を知らないか？」と相談があれば紹介し、プロジェクトチームが発足したり、亀岡でやりたいこと、相談したいことが集まり繋がる場に育っています。



Music and Food for WORLD CIVIC TOUR

多文化の交流を生む新しい試み

土曜日の真っ昼間から夕暮れ時、亀岡の“まほろば”から、世界中の音楽と飲食を通じて多義的で複雑な人間の世界を巡るマンスリーパーティー。
企画の立ち上がりは、増本泰斗と佐藤友佳が「KIRI CAFE」に音楽の要素を加え、そこに集まる人と私たちが交流を図る場を作りたいと話したことがきっかけでした。
個々の内面を通して他の文化を知ることを目指し、世界の市民を尋ね回る「WORLD CIVIC TOUR」と名付けました。
国を代表する料理や音楽を紹介するのではなく、それぞれが体験した地域文化の断片を持ち寄り、共有できるようなメニュー提案や音楽空間を目指しました。回を重ねるごとに参加者が定着したこと、またこれまでKIRI CAFEに来たことがなかったお客さんがこの企画を目的に訪れ、来場者同士で話が盛り上がり友達を作って帰る光景など、場の盛り上がりは毎回変化を見せつつも、想定していた風景以上の可能性をひろう企画になりました。

第1回 K-POPで再発見 韓国
2021年4月17日（土）
第2回 四川の旅
2021年6月26日（土）
第3回 ポルトガルの風
2021年7月31日（土）
第4回 ライスバレー収穫祭
2021年10月23日（土）
第5回　日本のお米
2021年11月23日（土）
第6回 クリスマスパーティー
2021年12月25日（土）

○企画
佐藤友佳、増本泰斗、武田幸子

こどもうるし体験プロジェクト

漆の魅力をこどもたちに伝える

『こどもうるし体験プロジェクト』は、「かめおか霧の芸術祭」に関わる漆作家が講師となり、亀岡の小学生に対して日本の天然素材である「うるし」の魅力を伝えるプロジェクトです。
こどもたちに漆について知ってもらう、興味を持ってもらうきっかけづくりとして、2021 年度も亀岡市内の小学校と協力し、漆塗りの竹とんぼに金箔を施すワークショップ形式の特別授業を行い、「うるし」の学びを深めました。今年は93人の小学生を対象に「霧空に飛ぶ　金色にきらめく漆塗り竹とんぼを作ろう！」と題して実施しました。
はじめは紙芝居などを交えながら漆について学び、その後砂子蒔きという技法を使って竹とんぼに金箔を振りかけていき、子どもたちにオリジナルの竹とんぼを作ってもらいました。そして最後に、完成した竹とんぼで遊びました。
また3月6日に行った第3回 ボンボンマルシェでは漆の絵付け体験や漆クイズを行うなど、漆の魅力を伝えるプログラムも行いました。

2021年11月15日（月）
at. 吉川小学校（3－6年生 25人）
2021年11月26日（金）
at. 曽我部小学校（4年生 31人）
2021年12月17日（金）
at. 畑野小学校（1－6年生 37人）

○講師
安井友幸（京都市立芸術大学　教授）
大矢一成（京都市立芸術大学　准教授）
徳山竜一（市政アドバイザー）

市内小・中学校による共同作品の展示
かめおかこども霧の芸術祭

アートの力で見つける故郷の魅力

「かめおか霧の芸術祭」の取り組みの中で、アーティストのYUKO KIMOTOさんが亀岡をテーマに描かれた大きな絵画を学校教材として活用することで、子どもたちに亀岡の魅力を再発見してもらおうと「亀岡市みらい教育リサーチセンター」が企画運営して行いました。
絵画をデジタルデータ化して36分割したものに、希望する小中学校の児童・生徒がKIMOTOさん指導のもとタブレットを使って自由に彩色しました。会場となる「開かれたアトリエ」では学校ごとに36のデータを繋ぎ合わせて印刷した作品を展示したほか、タブレット36台を使ってデジタルデータで展示も行いました。

2022年3月4日（金）－6日（日）
9:00－17:00（最終日は－16:00）
at. 開かれたアトリエ

○担当アーティスト
YUKO KIMOTO

○企画・運営
亀岡市みらい教育リサーチセンター

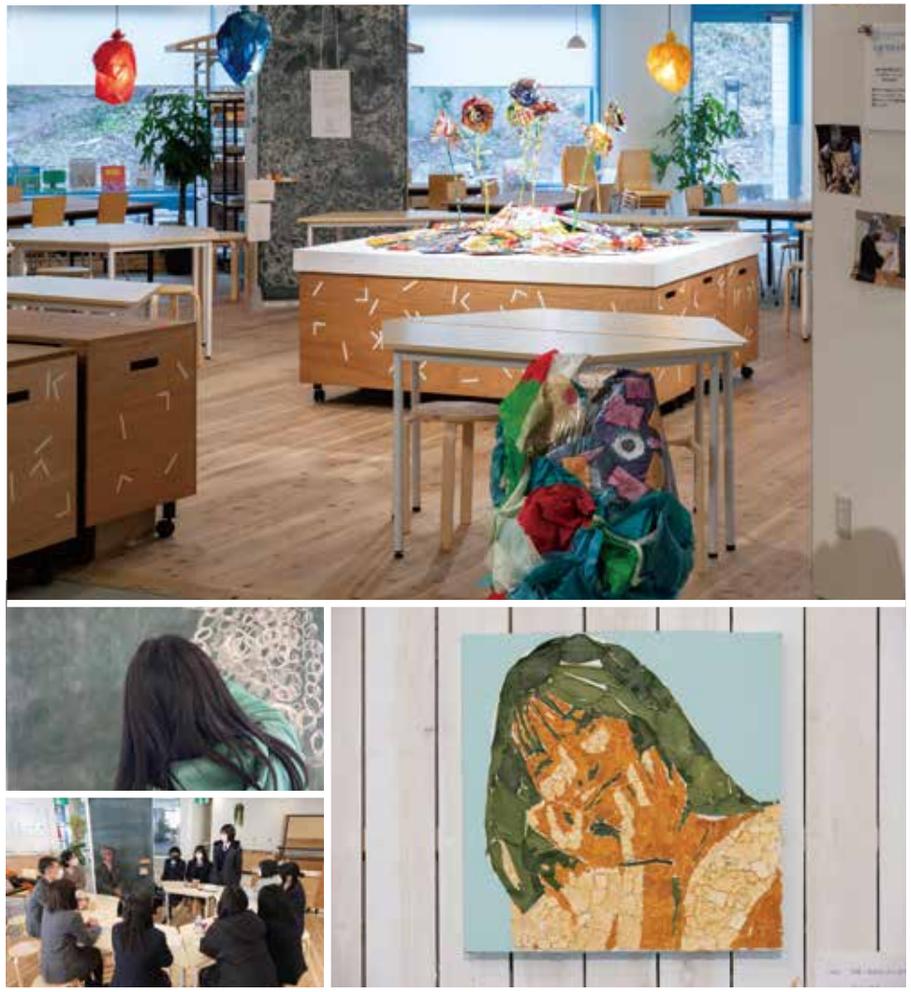
かめおか霧の芸術祭×亀岡高校美術部

自由な感性を表現する展覧会に

京都府立亀岡高校美術部の生徒8人によるアート作品の展覧会を行いました。
最初の打ち合わせのときにはまだイメージが湧いていなかった生徒たちも、芸術祭のアーティストと交流する中で得たアイデア・刺激をもとに創作を開始。
生徒のうちの1人はアーティストから聞いた亀岡市の【環境政策×アート】の取組をヒントに「魚の視点で考える環境問題」の作品を制作、また「みかんの皮をむくのが趣味」という生徒にアーティストが「みかんを使った作品を作ってみては？」と提案があったことから、みかんの葉と皮で作品を制作するなど、それぞれのメッセージが込められた個性的な作品が並びました。

2022年2月13日（日）－2月26日（土）
at. 開かれたアトリエ

○企画・運営
（一社）きりぶえ



かめおか霧の芸術祭×南丹高等学校

学生の想いを形にするサポート

2020年度から京都府立南丹高校3年生「総合的な学習の時間」の授業にかめおか霧の芸術祭メンバーが関わっています。
2021年度も同授業の中で地域の方を紹介したり、生徒の相談に乗ったり、色々な提案をしました。また、生徒が相談できる相手としてゲスト（デザイナーや農家、パイロット、エネルギー管理士、電気工事士など）を高校にお招きしました。
2021年度はスポーツ健康分野の学生たちと「スポーツとは何か？」を一緒に考えることからスタートしました。社会や人と繋がることを目標に、個人ワークやチームワークを約半年間行いました。
生徒たちは、自分ごとから生まれた提案の発表に向けて奮闘。活動を進める中で新型コロナを初めとした色々な制約にぶつかりながら、提案が様々な方向に変わっていく様子も印象的でした。
最終的には、笑いをテーマにオナラの音を採集して音楽やMovieを製作するチーム。食糧危機を考え、身近に食べられるものがないかと昆虫食を研究するチーム。学校から出るたくさんのゴミに注目し、そのゴミで船をつくって乗船するチーム。サイクリングマップやスタンプラリーを製作して亀岡をPRするチーム。発電を通じて学校と電気について考えるチーム。気球に注目して自ら空中に浮く装置を製作し、上空からの映像を撮影、学校のPR動画を製作するチーム。海外とZOOMを繋ぎ、スポーツを通じてコミュニケーションを図るチームが立ち上がりました。

at. 京都府立南丹高等学校

○企画・運営
辰巳雄基
○担当アーティスト
山下太一朗（気球プロパイロット）、山見拓（有限会社ひのでやエコライフ研究所 取締役）、木谷 一登（葡萄農家／木谷ワイン代表）、飯田優子（イラストレーター／デザイナー）、飯田大貴（パタンナー／No Technique Needed 主宰）

紙をつくる実験室

こどもアートプロジェクト

こどもの感性を育てる場づくり

これからの亀岡を背負って立つこどもたちに、身近にアートを感じてほしい、という思いからスタートした「こどもアートプロジェクト」。言われた通りになにかを作ったり描いたりするのではなく、自分の頭で考えて、いろいろと試行錯誤しながら自分だけのものを作る、そんな体験をしてほしいとの思いから、今回は「紙をつくる実験室」と題していろいろな素材を使って紙のようなものを作る実験を行いました。
この材料で作るとどうなる？　あの材料で作るとどうなる？
そうして創意工夫がどんどんと湧いてくるのか、こどもたちは次から次へと実験をしていきました。出来上がった作品は約1ヶ月間にわたり「開かれたアトリエ」で展示しました。

2021年10月24日（日）
13:00－17:00
at. 開かれたアトリエ

〇講師
綿引航平（こどもアトリエてくてく）

こどもみんげいプロジェクト

こどもと共創する器づくりプロジェクト

「こどもみんげいプロジェクト」は、かめおか霧の芸術祭から生まれた器づくりプロジェクトです。亀岡の陶芸家や芸術家とともに、こどもたちが一緒になって作業し、野菜などを型どり生まれるさまざまな器をつくりだしていきます。
第1回の「野菜の型どり大会」では参加者のこどもたちが思い思いの野菜を持ち寄って、それぞれに石膏で器のもとになる型をとっていきました。
また第2・3回の「器づくり大会」では、第1回で作った石膏の型をつかって、実際に器づくりを行いました。
今後その器がどのように使われていくか、使っていくかも一緒にこどもたちと考えていきます。

第1回 野菜の型どり大会
2022年2月5日（土）
第2回 器づくり大会
2022年3月12日（土）
第3回 器づくり大会
2022年3月13日（日）

〇企画・運営
（一社）きりぶえ
〇サポートメンバー
松井利夫（陶芸家）、黄瀬充（陶芸家）、球体アイ（陶芸家）、丹下紘希（映像作家・葡萄農家見習い）、小岩洋貴・コイワシ（コマ撮りアニメ作家）、小岩蛍・コイワシ（クラフト作家）、武田幸子（カフェの人・工場長）、佐藤友佳（音楽家）、辰巳雄基（芸術家・山成研究所）、大垣留衣（ものづくり科学実験教室主宰・山成研究所）

かめおか霧の芸術祭 × 農林

地元の方と伴走する地域活性化プロジェクト

亀岡の旭町にある農産物直売所「なごみの里あさひ」を中心として町の活性化をしたいと地元の方から相談を受けたことをきっかけに、亀岡市農林振興課からの委託を受けて、2020年度からモデル事業として活性化に取り組んでいます。
昨年度は課題や地域の魅力をたくさん発見したり、若者やベテラン農家、地域の人など様々な立場からの意見を聞く中で、町のビジョンを丁寧に考えるには対話の場が必要だと考えました。このため2年目となる2021年度は様々な世代や立場の人とヒアリングや話し合いの場をつくり、共通した方向性を考えることとしました。
具体的には、小林舞さん（京都大学学際融合教育研究推進センターアジア研究教育ユニット特定助教／一般社団法人FEAST）とともに、様々な地域住民（なごみの里あさひのスタッフ／地域のベテラン農家／若手農家／自治会長や役員さんたち／子どもと親）とともに計5回のヒアリングや話し合いの場を設け、未来に繋がるキーワードを話し合い、考えてもらいました。

○企画・進行
辰巳雄基

かめおか霧の芸術祭 × 環境

環境政策をアートで発信

2018年度から始まったアート×環境の取り組みは、廃棄されるパラシュート生地をアップサイクルする取り組みから生まれたHOZUBAGや市民とともに発案した環境ロゴマークなど、亀岡を代表する環境のシンボルを生み出してきました。

キャンドルナイト2021

2021年12月19日（日）13:00－20:00　at. かめきたサンガ広場

捨てられたガラス瓶と廃てんぷら油を使い、ゴミとゴミに人の手を合わせることで「希望の光」に生まれ変わる。そんな光のアートイベントを行いました。
亀岡市からは捨てられた小さなガラス瓶を約600個提供され、亀岡市内の飲食店からは廃てんぷら油を提供いただきました。
趣旨に賛同する京都信用金庫の多くの職員さんとともに、日中はキャンドル作りワークショップを行い、日が暮れてきた頃にキャンドルに火を灯し、皆が思い思いの場所にキャンドルを置いていきました。

○主催
かめおか霧の芸術祭実行委員会、亀岡市、京都信用金庫
○協力
skyhacker、南丹清掃株式会社、アトリエカフェ、亀岡給食センター、Groove Doughnuts、京料理松正、株式会社サンロイヤル
○企画・運営
持田博行

オーストリアのクリスマスセレモニー

亀岡市の姉妹都市クニッテルフェルト市やホストタウン事業を通して交流のあるオーストリア。
オーストリア出身のマックスさんと一緒に現地のクリスマス文化を体験し、理解を深めるイベントを開催しました。
前半はオーストリアのクリスマスツリーに飾られる麦藁を使ったオーナメントづくりのワークショップを開催。後半のクリスマスセレモニーでは、ヴィオラ奏者の森脇崇さんとピアニストの前田菜々子さんによるミニコンサートも行い、オーストリアで親しまれている音楽が演奏されました。

2021年12月11日（土）
15:00－18:00
at. 開かれたアトリエ

〇クリスマスのお話、詩の朗読
Max Fellner、Mariko Fellner、ALEX Fellner、
塚本勝之、山田郁代、東村陽子、井上恵子
〇ミニコンサート演奏
森脇崇（ヴァイオリン）、前田菜々子（ピアノ）
〇企画・進行
佐藤友佳

へんちくりん

夏真っ盛りの8月3日に、京都芸術大学の学生によるちょっと変わったお祭り「へんちくりん」が開かれたアトリエで開催されました。
学生自らが亀岡の竹林から竹を切り出して、さまざまなおもちゃや造形物の創作を行いました。
竹のドームでくつろいだり、足水で涼んだり、水鉄砲を作るキットで楽しんだり！　夏を感じる「へん」なお祭りになりました。

2021年8月3日（火）
11:00－17:00
at. 開かれたアトリエ

霧の芸術館2021

霧の芸術館2021を歩く

「霧の芸術館」では亀岡ゆかりの芸術家の作品の魅力の紹介のみならず、その道具やアトリエでの制作風景、作品に対する思いや亀岡での暮らしについての言葉などを通してその人となりの魅力をも紹介したいと考えました。そのことによって異能の才能の裏の生活者としての顔を垣間見、いろんな才能が行き来し暮らす街の生活を楽しみたいと思います。

世界中が未知のウィルスとの共存を模索している今、芸術の意味や役割が問われています。見えないからと言って無いわけではない、聞こえないからと言って存在しないわけではない、小さなつぶやきのような陶片や、声にならないため息のような虫食いの穴に目を凝らし耳を傾け宇宙の不思議を描いてきた芸術家はその対象が何であれ、わたしたちを「ここではないどこか」へ連れて行ってくれます。

車窓の向こうに、ふと虹を見た時に思い描く懐かしい想い出であったり、映画館を出てとっぷり日が暮れていた時の驚きのように、日常からちょっとトリップしたり、二つの世界を行き来できる力、誰もが持っているこの力を引き出してくれるのが芸術だと思います。世界の見方を変えたり人類に希望を与えるといった大きな役割の前にまず忘れてはならない芸術の役割は、私の問題を「ここではないどこか」へ連れ出し新しいもう一人の自分を作り出すための魔法を与えてくれることだと思います。

そんな芸術家の魔法のレシピや道具をアーカイブとしてまとめ保管し展示する場所が「霧の芸術館」です。

2021年の「霧の芸術館」は亀岡駅から市役所までの約2キロメートルの道筋に4つの施設それぞれの特色を生かした展示構成で成り立っている、歩いて廻れる複合型芸術館です。亀岡駅近くの亀岡市文化資料館では江戸時代の絵師円山応挙から現代作家のヤノベケンジまで芸術家の作品資料を中心に亀岡との接点を資料化する展示を行います。その坂を少し登った大本本部では亀岡ゆかりの美術工芸家の作品がギャラリーと能楽堂を中心に展示されます。大本の聖地を抜け北町商店街に入ると、みずのき美術館がありそこで「HOME PARTY 08 なんたうん」という誰もが参加できるパーティーのような展覧会が開催されます。さらに市役所地下の「開かれたアトリエ」では漫画家の秋本治さんが亀岡を舞台に描いた「ファインダー–京都女学院物語–」の作品展示をはじめとする「街と巡」展が開催されます。

人類の未来がどれだけ続くのかわからなくなってしまった現代、少なくとも私たちの寿命よりは長く続くであろう未来を芸術の光で輝かせるために、このアーカイブを次の世代に送り届けたいと思います。

かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー
松井利夫

企画担当

副産物産店
美術家の矢津吉隆と山田毅のユニット。アーティストのアトリエから出る魅力的な廃材を“副産物”と呼び、回収、活用する資材循環プロジェクト。それぞれの作家の感性を帯びた作品未満のそれらのモノたちに敢えてスポットを当てることで、ものの価値や可能性について改めて考える機会をつくっている。

霧の芸術館2021
アーカイブ動画

2022年1月15日（土）– 30日（日）

〇会場
会場A.
亀岡市文化資料館
会場B.
大本本部（みろく会館・春陽閣など）
会場C.
開かれたアトリエ
会場D.
みずのき美術館
〇料金
共通券 会場A・B
大人　500円
小学生以下　無料
※共通券で、亀山城址ならびにギャラリーおほもとにも無料で入館可。
※開かれたアトリエ（会場C）、みずのき美術館（会場D）の入館は無料。

撮影：表恒匡

霧の芸術館　亀岡市文化資料館

線を引き続けるためのアーカイブ

「亀岡市文化資料館」を会場とした企画展「線を引き続けるためのアーカイブ」は、亀岡ゆかりの芸術家の作品そのものでなく、アトリエの空間や使い古した道具、加工される前の素材、窓からの景色や散歩道、本棚に並ぶ本など、その芸術家を構成するさまざまな要素をリサーチによって紐解き、その実像に迫る試みです。
会場では、芸術家のアトリエ跡や資料等をアーティストがリサーチ（調査）した結果を展示します。
かめおか霧の芸術祭では、亀岡の風土や環境に身を置き、作品と向き合い続けてきた芸術家の営みそのものが亀岡市にとって貴重な“文化資料”であるととらえて、今回の展覧会を機に数年かけてアーカイブ（記録・保存）していきます。

2022年1月15日（土）－30日（日）
10：00－17：00
at. 亀岡市文化資料館

〇出展作家
山口牧生
出口鯉太郎
ヤノベケンジ
みずのき絵画教室
円山応挙

出口 鯉太郎

Deguchi Koitaro

インタビュー映像
陶芸家
出口鯉太郎

出口家と金重家という陶芸家の家系に生まれた出口鯉太郎さん。しかし、陶芸の道にはすぐには進まず、学生時代は京都芸術短期大学（現京都芸術大学）で芸術学を専攻し陶芸以外の様々な芸術に触れて過ごしたそうです。生まれ育った実家には陶芸の窯があり陶芸家である祖母出口尚江さんの背中を見て育った出口さんは、卒業後は自然と陶芸の道へ進み、母方の地元である岡山県の備前焼の窯で修行をすることに。地元亀岡に戻ったあとは、備前焼のほかに信楽焼きや三彩焼きなど様々な作風を展開し、全国のデパート・百貨店で個展を開催しました。現在は亀岡市内の山中に仲間と一緒に穴窯をつくりそこで制作を続けられています。そこはNPO法人ウリズンの拠点でもありジャンルを超えて多くの芸術家が集う場にもなっています。

出口鯉太郎（でぐちこいたろう）
1960年亀岡生まれ。曾祖父は出口王仁三郎。祖父は陶芸家で人間国宝の金重陶陽。1983年備前焼の大家、金重憬の元で陶芸の道に入る。その後、京都市工業試験場陶磁器研修専修科を修了。備前焼、信楽焼、三彩焼など多様な焼き物を制作。全国のデパート・百貨店にて作品を発表。亀岡市内で作陶を続けながらNPO法人ウリズンの代表として芸術祭などを企画。

ヤノベ ケンジ

Yanobekenji

インタビュー映像
現代美術作家
ヤノベケンジ

大阪出身で日本を代表する現代美術作家のヤノベケンジさんですが、京都市立芸術大学の彫刻科の大学院修了後すぐに亀岡市西別院町にアトリエ兼住居を建て、一時期ご家族と共に住まれていたことがあります。現在は住居としては使用していませんがアトリエ兼倉庫として今も活用されており、亀岡のアトリエでは主に90年代から2000年代の初めにかけて多くの代表作が制作されました。核エネルギーの問題をテーマにしたアトムカーや腹話術人形のトらやんのシリーズもここで生まれました。彫刻家の名和晃平さんや金氏徹平さんも学生時代に泊まりがけでヤノベさんの作品制作を手伝っていたそうです。

ヤノベケンジ（やのべけんじ）
1965年大阪生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。京都芸術大学美術工芸学科教授。幼少期からアニメや漫画の世界に影響を受け創作活動を始める。90年代から原子力や放射能といった社会的なモチーフを扱い、サヴァイヴァルからリヴァイヴァルへと徐々に主題を変えながら、大型の彫刻作品を中心に多様な媒体を用いた独自の世界観を構築。国内外の美術館での大規模な展覧会の開催や国際的な芸術祭で活躍するなど日本を代表する現代美術作家として現在も精力的に作品を制作している。
主なパブリックコレクション：大阪中之島美術館、国立国際美術館、金沢21世紀美術館、広島市現代美術館など

山口 牧生

Yamaguchi Makio

インタビュー映像
彫刻家
山口さとこ

今から40年以上前に彫刻家の山口牧生さんは作品制作のために亀岡市西別院町にアトリエを構えました。妻は詩人の山口三智さん、長女は彫刻家の山口さとこさん。亀岡に来た理由は彫刻の材料として使用する石の産地が近いからという理由でした。亀岡市のとなり大阪府豊能町には能勢黒（のせぐろ）とよばれる良質な御影石が採れます。山口さんはその石の採掘所（現在は閉鎖）の一角を貸してもらい、日々、その石山に娘のさとこさんと通って能勢黒を材料に作品制作に精を出したそうです。現在は西別院町のアトリエの隣にミチガーデンという野外彫刻の庭が作られ、山口牧生さんの彫刻作品を観ることができます。

山口牧生（やまぐちまきお）
1927年福岡県戸畑市生まれ。13歳の頃に兵庫県西宮市に移りその後終戦をむかえる。京都大学印度哲学科に入学するが2ヶ月で美学科に転科。大学卒業後は大阪市立美術研究所に入所、美術の道に進む。初期は木彫から始まりセメントや廃材を素材としていた。団体展への出品や画廊での個展を経て、野外彫刻（公共彫刻）に可能性を見出し、1968年に小林陸一郎、増田正和らと「環境造形Q」を結成。その時に石という素材に出会い、その後は石彫作品を主に制作。1983年第14回中原悌二郎賞受賞。
主なパブリックコレクション：京都国立近代美術館、兵庫県立近代美術館、神奈川県立近代美術館など

円山 応挙

Maruyama Okyo

インタビュー映像
臨済宗天龍寺派 福寿山金剛寺
住職 中道承碩

江戸時代中期に写生画の絵師として名を馳せた円山応挙は丹波桑田郡穴太村（現在の亀岡市曽我部町穴太）で生まれたと言われています。応挙の家は農業を営んでいましたが、凶作や厳しい年貢の取り立てによる貧しい農家の暮らしのなかで、第二子であった応挙は8,9 歳の頃に村内にあった金剛寺に奉公に出されました。小僧時代から絵の才能を見出された応挙はのちに京都で絵の才能を開花させます。絵師となり一世を風靡した応挙は、晩年には郷里である金剛寺に戻り、重要文化財にもなっている障壁画の大作「波濤図」を描きました。

円山応挙（まるやまおうきょ）
享保18年亀岡生まれ。江戸時代中期から後期にかけて活躍した絵師。近現代の京都画壇にまでその系統が続く円山派の祖であり、対象物を観察し写しとる“写生”を重視した写生画や多様な空間表現を取り入れた画風は、その時代において先駆的な存在であった。作品は東京国立博物館などに所蔵され重要文化財に指定されているものも多い。

みずのき絵画教室
Mizunoki Painting class

インタビュー映像
みずのき美術館キュレーター
奥山理子

障害者支援施設みずのきの創立5年目の1964年に始まった日本画家・西垣籌一さんによる絵画教室（1964年〜2001年）。リクリエーションのための創作活動として始まったが、1970年代後半から本格的な絵画指導に切り替えられ、公募展での入選やアール・ブリュット・コレクションに収蔵されるなど国内外で注目されました。作品制作を通じ障害を持った人々の“個”と向き合い非常に高い絵画性を持った作品に昇華させる方法論は、全国的にも珍しいものだったそうです。西垣先生が亡くられたあとは、みずのき美術館によって作品や資料が管理されており、創作活動も新たな講師とともに取り組まれています。

西垣籌一（にしがきちゅういち）
明治45年（1912）兵庫県生まれ。昭和8年（1933）に京都市立絵画専門学校本科に入学し日本画を学ぶ。在学中、吉岡堅二、福田豊四郎らによる新日本画研究会の結成に参加。卒業後、文展鑑査展に初入選。第1回新文展に入選するなど認められ、26歳のとき新美術人協会に参加する。その後、京都市立絵画専門学校助教授となったのち、京都市の高等学校の教諭になり退職を迎えるまで美術教育に携わった。また、昭和39年（1964年）からは京都府亀岡市の障害者支援施設「みずのき」で絵画教室を通じた障害者による創作活動の支援に尽力した。

亀岡市文化資料館
展示のみどころ

アトリエ空間の3D体験

出展作家のアトリエ空間をスマートフォンの中で疑似体験できる3D体験。展示パネルに設置されたQRコードを読み込むと、スマートフォンの画面の中に、展示パネルに描写されているアトリエと同じ空間が出現し、作家のアトリエを360度見てまわれ、実際にその場を訪れているかのような擬似体験ができる。

3Dマッターポート
文化資料館での展示の様子をお楽しみいただけます。

資料閲覧コーナー

芸術家のアトリエから借りてきた貴重な芸術資料の一部を実際に手にとって閲覧できるように構成された「資料閲覧コーナー」。たくさんの資料の箱から好きなのものを選んで、「有形芸術文化財調査票」と照らし合わせながら、虫眼鏡を使って資料をじっくりとみてみると、展示を見るだけでは気づけない作品の裏側に触れることができる。

資料閲覧コーナー解説映像

霧の芸術館　大本本部（みろく会館、春陽閣ほか）

「亀岡ゆかりの芸術家展」

大本本部を会場に行われた「亀岡ゆかりの芸術家展」。今年度は展示会場が昨年のみろく会館に加えて、能楽堂のある春陽閣、さらにはみろく会館から春陽閣を繋ぐ中庭付近にまで広がり、日本画、洋画、陶器、漆器、彫刻、音楽家などさまざまな芸術家16人の作品が展示されました。

2022年1月15日（土）－30日（日）
10：00－17：00

出展作家
〇大本みろく会館
金重尹郎
栗本夏樹
佐々木虚室
出口鯉太郎
渡辺信喜
西野康造
YUKO KIMOTO
北山善夫
吉田伊佐
〇春陽閣
奥村博美
西久松友花
八太栄里
松井利夫
森太三
〇郷碑前広場付近
ACOON HIBINO
〇亀岡市文化資料館
ベリーマキコ

西野 康造
KOZO Nishino

1951　兵庫県尼崎市に生まれる
1977　彫刻専攻科 修了
2011　本郷新賞
2013　NY 4WTCロビーに作品設置
2014　京都美術文化賞
2019　京都市文化功労者
2021　中原悌二郎賞

金重 尹郎
TADAO Kaneshige

1947　岡山県備前市生まれ
　　5歳から18歳までを亀岡で過ごす
1969　東京芸術大学彫刻科卒業
　　以降各地で個展、グループ展を開催する
1995　阪神淡路大震災によりアトリエ全壊、
　　以降制作活動を休眠する
2009　岡山県高島屋にて陶芸展
　　（以降隔年にて同所で個展開催）
2010　田部美術館「茶の湯の造形展」入選（`11、`19）
2020　亀岡に制作拠点を移す

佐々木 虚室
KYOSHITSU Sasaki

1964　京都府亀岡市に生まれる
1980　京都市立銅駝美術工芸高等学校陶芸科に入学
1983　大阪芸術大学芸術学部工芸学科に入学
1986　京都府立陶工職業訓練校に入学
1987　京都府亀岡市にて茶の湯陶芸楽焼制作開始
1996　紫野大徳寺五百二十世住持同寺第十四代管長福富雪底老師より
　　窯名、帰来窯を拝受以来、帰来窯茶陶の制作に励む
2003　大丸博多天神店にて初個展以降、全国各地にて個展開催
2016　台湾台北市にて海外初個展開催
2019　パリ、アムステルダムにて個展及びワークショップ開催

出口 鯉太郎
KOITARO Deguchi

1960　京都府亀岡市に生まれる
1983　金重懐氏の元で陶芸の道に入る
1986　京都市立工業試験場陶磁器研修専科修了
1995　日本橋三越本店にて初個展
その後、高島屋京都店、大阪店、岡山店、名古屋松坂屋本店等にて個展
金重一門展やギャラリー等で個展やグループ展を開催

渡辺 信喜
NOBUYOSHI Watanabe

1941　京都府京都市に生まれる
1964　京都市立芸術大学日本画科卒業
1966　農鳥社入会 山口華楊に師事
1970　日春展奨励賞（'71）日春賞（'72）日展特選（'84）
1976　京都府亀岡市に移住
1984　横の会結成（'93解散まで出品）
1998　NEXT結成（'07解散まで出品）
2012　京都府文化賞 功労賞
2015　改組新第２回日展 内閣総理大臣賞
2018　京都市文化功労者
現在　日展理事 親日春会会員 京都精華大学名誉教授

栗本 夏樹
NATSUKI Kurimoto

1987　京都市立芸術大学大学院美術研究科漆工専攻修了
1995　日本の現代工芸－伝統と前衛－展
（ヴィクトリア＆アルバート美術館／U.K.）
1996　京都府亀岡市に移住
2001　VISION展（豊田市美術館／愛知）
2011　PLAY/PRAY あそぶ美術，おもう美術（豊田市美術館／愛知）
2017　HARD BODIES（ミネアポリス美術館／U.S.A.）
2018　CONTEMPORARY LACQUER FROM JAPAN
（ESH Galler／ミラノ,Italy）
2019　HARD BODIES（モリカミ美術館／U.S.A.）
現在　京都市立芸術大学美術学部漆工研究室 教授

北山 善夫
YOSHIO Kitayama

1982　第20回ヴェネツァ・ビエンナーレ（イタリア）
　　カーネギーインターナショナル（米国）
　　バングラデシュ・ビエンナーレ ゴールドメダル賞
1992　日本芸術大賞
　　滋賀県文化奨励賞
1998　京都府亀岡市に移住
1999　「現代絵画の展望展」東京ステーション賞
2011　京都府文化賞 功労賞
2018　京都市文化功労賞

YUKO KIMOTO

1985　神奈川県横浜市に生まれる
2005　渡英 ロンドン芸術大学セントラルセントマーチンズカレッジへ入学。ファッション科専攻
2007　在学中にAlexander McQueenにインターンとして働きはじめる
2009　同大学大学院進学
2011–　CELINE・CHANNELなどグランメゾンにてデザイナー経験をつむ
2013　独立し、オーダーメイドドレスのブランドYulto.coを設立。博士課程を修了
2015　日本に帰国し、気仙沼藍染工房のクリエイティブディレクターに就任
2017　「たたら展」丸の内Good Designにて、藍染日傘を展示。島根県奥出雲町に作品提供
2018　ペン画を描きはじめる　代官山、世田谷、赤坂にて個展をひらく
2019　出産　京都に拠点を移す
　　作品提供 CHART PROJECT@東京国際フォーラム、スウェーデン、飛騨高山にて作品展示。
2020　三菱電機に作品提供　星野リゾート×Avex開催Creators wall入選
2021　英国人画家Mick Davis氏と合同作品集を出版。
　　ルーブル美術館 salon art shopping に作品出展

撮影：岡田春樹

吉田 伊佐
ISA Yoshida

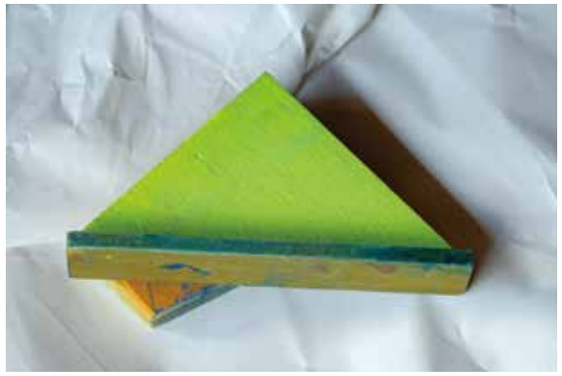
1959　京都府南丹市日吉町に生まれる
1984　京都市立芸術大学美術学部（油画専攻）卒業
1986　日吉ダム建設により亀岡市千代川町に集団移転
1999　これより全国の百貨店、画廊で個展を多数開催する
2011　日展特選受賞
　　「時を超えて～静物と風景画展」（ホキ美術館）
　　ARTEXPO NEWYORK（New York）Lineart2011（Belgium）
2012　「現代の写実ホキ美術館名品展」（ホキ美術館）
2013　「光と風をかんじて・・展」（ホキ美術館）
2014　「吉田伊佐展～日本の原風景を追って～」（南丹市日吉町郷土資料館）
2016　「吉田伊佐展～四季の移ろい～」（南丹市立文化博物館）
2019　「芦生の森」～森の魅力を探る～（南丹市立文化博物館）
現在　日本美術家連盟会員 京都府亀岡市千代川町在住

ACOON HIBINO

滋賀県出身。作曲家、ピアニスト、画家。
50才で528Hz音楽（機能性を持った音楽）を確立する。
53才にメジャーデビューし、近年まれにみるCDを売上げ
「心と体を整える～愛の周波数528Hz～」第57回日本レコード大賞企画書受賞。
順天堂大学医学部教授の小林弘幸先生がACOON HIBINO（永魂）の
楽曲を使い臨床実験が行われ論文化される。
2018年京都府亀岡市にMoon Studio（ムーンスタジオ）をつくる。
同じく2018年から京都府亀岡市観光大使に就任し、現在に至る。
2021年528Hzの音楽により磨きをかけ、不安やストレスを抱える多くの人々に
「より求める人に合わせた」特別な音楽『聴く処方箋』シリーズを発表し配信リリースを行う。
同年、画号TsuRuGiとして画家としてもデビュー。
音楽と絵画を合わせた『聴く絵画展』を中心に
個展も精力的に開催し、多彩なアーティストとしても活躍中。

撮影：大西香菜子

森 太三
TAIZO Mori



1974　大阪府出身
1999　京都精華大学大学院美術研究科立体造形専攻修了
2006　個展「クリテリオム 69」（水戸芸術館／茨城）
2007　「Japanese Suppleness」（Gjethuset ／デンマーク）
2009　「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009」（旧枯木又分校／新潟）
2015　「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2015」公募大賞受賞（六甲枝垂れ／兵庫）
2018　個展「転用と配列」（甲南大学ギャルリー・バンセ／兵庫）
2020　「KYOTO STEAM」（京都市京セラ美術館東山キューブ／京都）
2021　個展「はててはじまり」（堀川新文化ビルヂングNEUTRAL ／京都）
現在　みずのきアトリエ講師・みずのき美術館インストーラー
　　京都芸術大学・京都精華大学・成安造形大学 非常勤講師

松井 利夫
TOSHIO Matsui

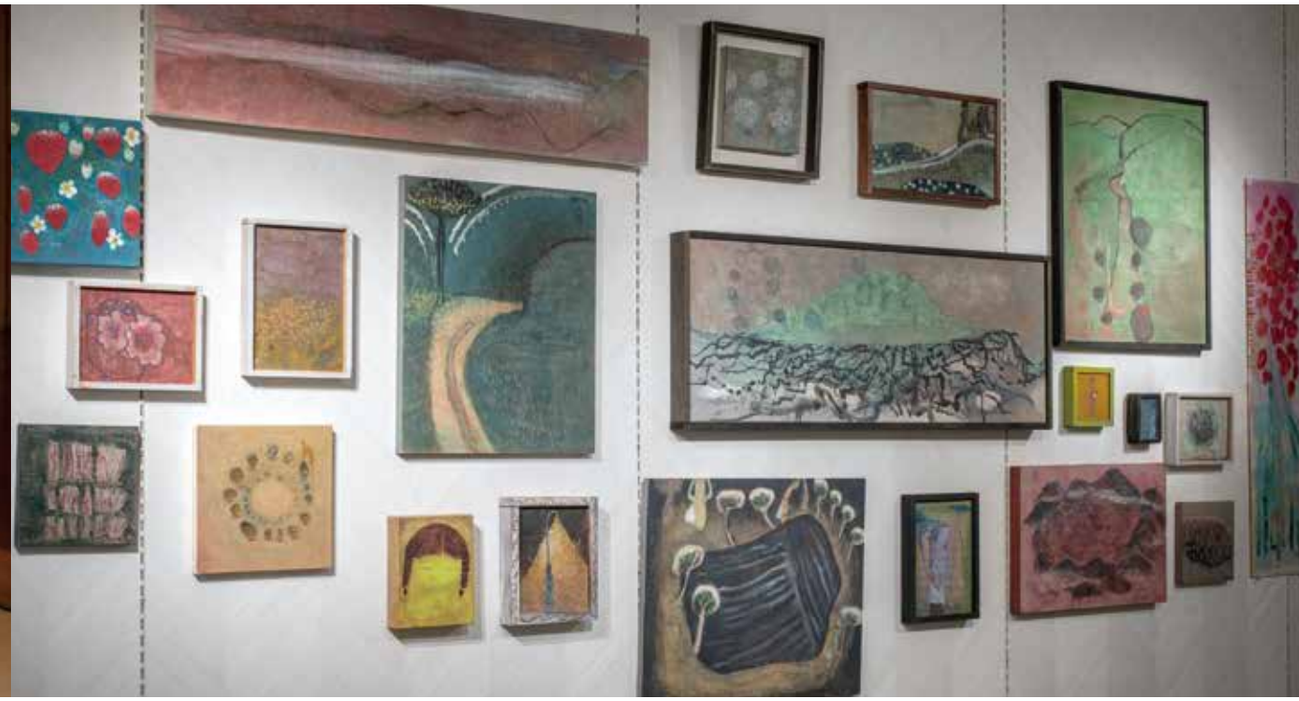
1955　大阪市生まれ
1980　京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了
1982　第40回ファエンツァ国際陶芸コンクール、グランプリ受賞（イタリア）
2003　第2回京畿道世界陶磁ビエンナーレ 優秀賞（利川／韓国）
2013　「サイネンショー」（VOICE GALLERY／京都）（'14）
2015　第14回カルージュ国際陶芸ビエンナーレ、ARIANA大賞受賞（ジュネーブ・スイス）
2016　第29回京都美術文化賞受賞
2018　「Cerámica japonesa」Galería Álvaro Alcázar（マドリード・スペイン）
2019　第37回京都府文化賞 功労賞
2021　さわる“触”の大博覧会（国立民族学博物館）
現在　京都芸術大学教授、IAC 国際陶芸アカデミー理事、滋賀県立陶芸の森館長

八太 栄里
ERI Hatta

1989　亀岡市生まれ
2011　大阪デザイナー専門学校　研究科卒業
2014　国内を中心に個展・アートフェア・百貨店などで作品の発表をはじめる
2016　くどやま芸術祭（和歌山県伊都郡九度山町）
2017　遺され村の美術展（滋賀県大津市葛川細川集落）
2020　「美の予感2020-平面・特異点のカナリア-」高島屋美術画廊
　　個展「在りし日の標」芝田町画廊（大阪）
2021　くどやま芸術祭2021（和歌山県伊都郡九度山町）
　　個展「風景の採集」MASATAKA CONTEMPORARY（東京）

西久松 友花
YUKA Nishihisamatsu

1992　京都府亀岡市出身
2017　Kyoto Art for Tomorrow –京都府新鋭選抜展
　　NHK京都放送局賞（京都文化博物館／京都）
2018　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器修了
　　京都花鳥館賞奨学金　最優秀賞
　　シブヤスタイルvol.12（西武渋谷／東京）
2019　KOGEI Art Fair Kanazawa（KUMU KANAZAWA ／石川）
2020　transmit program2020（京都市立芸大ギャラリー @KCUA ／京都）
　　個展「拠」（ギャラリーヒルゲート／京都）
　　以美為用展～明日へのとびらII～（京都高島屋／京都）
2021　国際工芸アワードとやま2020 入選（富山県美術館／富山）
　　個展「珠 –マニ –」（ギャラリーヒルゲート／京都）
　　NATIVITY（品銀座／東京）



奥村 博美
HIROMI Okumura

1953　京都府京都市生まれ
1978　京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了
1979　京都府亀岡市で作陶
1990　第41回京都工芸美術展にて大賞受賞（`92優秀賞受賞）
1991　焼き締め陶公募展にて記念賞受賞
1994　淡交ビエンナーレ茶道美術公募展にて奨励賞受賞
　　亀岡市美術展にて市長賞受賞（`08記念賞受賞）
2004　京都美術作家協会展にて奨励賞受賞
1996–　京都精華大学芸術学部造形学科陶芸専攻 教員
2020　京都精華大学を選択定年退職
現在　新たな技法を取り込み技法に溺れず技法に
　　寄り添い時には弄んで生まれる姿を模索中

ベリー マキコ
MAKIKO Berry

1975　京都府亀岡市生まれ
1998　成安造形大学造形美術科日本画クラス卒業 翌年研究生
1999　渡米 メトロポリタン美術館東洋絵画修復室フェロー
2008　帰亀 のびなびあーと開講
　　作家名を岡本真紀子からベリーマキコとする
2012　「第４回京都日本画新展」大賞（美術館「えき」／京都）
2016　「第２回 藝文京展 –現代の平面・ひかりとかたち –」優秀賞（京都芸術センター）
2019　「京都日本画新展in二条城～100人の画家・嵯峨野線を旅して～」
　　「京都・亀岡 暮らしとところ 原画展」（KIRI CAFE）
2021　「第８回東山魁夷記念 日経日本画大賞」入選（上野の森美術館／東京）
　　「ベリーマキコ・石橋志郎 ふたりの視点 Their point of view from KYOTO」
　　（今治市大三島美術館）
現在　京都日本画家協会会員　Willpower Arts Institute 代表

霧の芸術館　開かれたアトリエ

開かれたアトリエ展覧会「街と巡」

霧の芸術館2021の3つ目の会場「開かれたアトリエ」では、季節に応じて行われている「開かれたアトリエ展覧会」と連動して行われました。開かれたアトリエ展覧会のテーマは『街と巡』。亀岡の街の魅力を掘り起こし、その魅力を巡ることのできる、そんな展覧会です。

本展覧会では商工観光課と連携した企画を実施。京都・かめおか観光 PR大使の秋本治さんが描く亀岡市を舞台とした漫画「ファインダー −京都女学院物語−」の作品展示を行うとともに、市民が自分でも写真を撮って参加できる市民参加型の展覧会を行いました。

2022年1月15日（土）− 2月10日（木）
9：00−17：00

街と巡

秋本治さんの漫画「ファインダー －京都女学院物語－」の作品展示に合わせて、市民がファインダーを通して撮った写真をSNS上で集めていきました。展示の開始当初はまっさらだったパネルが週を重ねるごとに徐々に写真が増えていき、会期が終わる頃には一面が市民の方々から投稿された写真で埋め尽くされました。

霧のまち

子どもたちとつくる想像の街「霧のまち」を表現する展覧会。「こんなまちあったらいいな」「こんな遊び場あったらいいな」という子どもたちの想いを、美術家のアトリエから出る木片を組み立て形にし、思うままの街がたちあがりました。

ワークショップ
「木片で霧のまちづくり」
2021年11月28日（日）
2022年1月23日（日）

読み聞かせ
「霧の絵本」
2022年1月23日（日）

〇企画
辰巳雄基

霧の芸術館　みずのき美術館

HOME PARTY 08 –なんたうん 2022–

みずのき美術館の「HOME PARTY」展は、ホームパーティーのように作品やアイディアを持ち寄ってつくる展覧会として毎年開催しています。

今回の「なんたうん」展では、1月15日～30日に「ホームパーティー公開準備中！」と題して、来場者が自由につくってあそべる道具や仕掛けをたくさん用意しました。開幕前に「開かれたアトリエ」に約1月間設置された「古布ポスト」に届けられた布でつくる座布団ワークショップは、お気に入りの布にマスキングテープと絵の具で模様をつけていく工程が人気を博しました。

また、近隣の福祉施設やフリースクールのみなさんに日頃から制作している作品を持参してもらい、一緒に展示作業をする時間を持つこともできました。

美術館は作品を展示する場所ですが、「これが作品です」と決めるのは必ずしも美術館だけに与えられている特権ではないはずです。作品をつくり、展示し、鑑賞するという過ごし方を可能な限り来場者に委ねることで、作品を介した関係性を「評価する／評価される」だけにとどめず、どれくらいの人へどんなふうにひらくことができるのかを考えました。

○主催
きょうと障害者文化芸術推進機構（京都府）
社会福祉法人松花苑みずのき美術館
○協力
日本基督教団 丹波新生教会、ヴィレッジれん、
学びの森、ふれあい絵画（みずのき）、共同印刷工業
○イラスト・デザイン
ALICE OZAWA（.A）
○展示・設営
STUDIO 森森
○出品者・参加者
芦田房恵、今西司郎、伊藤修、大槻保之、大西節代、
小澤亜梨子・三浦麻美、菅野幸子、金澤秀樹、
河村タミ、北脇廣子、きの こ、来原尚子、郡山広明、
小山敦生、辻吉明、土居良美、中川友香里、
中川璃々杏、中川渉、引原正三、福村惣太夫、船越智恵、
牧野恵子、松田弥栄子、松本彩華、溝邊明美 、安威知子、
山田由利子、山本あけみ、山本一男、結城山初美、
和田豊子、ワンニャンズ×ねこ、M.M、そのほか
「なんたうん 2022 –ホームパーティー公開準備中 !–」
来場者のみなさん

撮影：梅田彩華

霧の芸術館 関連イベント

亀岡文化交流協会 演奏会

2022年1月23日（日）
at. 大本本部（春陽閣）

邦楽や大正琴演奏、能楽、日本舞踊など、さまざまな演奏や舞台表現などの文化活動を行う、亀岡文化交流協会による発表が行われました。

アトリエカフェ
×かめおか霧の芸術祭

お菓子とおつまみとワインとコーヒー

2022年1月15日（土）– 16日（日） 12：00–17：00
at. 開かれたアトリエ

土日にカフェの営業がされていない開かれたアトリエの新しい活用法を試みるため、2日間限定でこだわりの食べ物や飲み物を集めたマルシェのような催しを行いました。

○出店者
季節のお菓子 つきよみ
&laboratory
Kanji okuoka
木谷ワイン

TIMELINE
2018–2021

TIMELINE

2018 – 2021

KIRI CAFE

KIRI マルシェ

混ざる霧と音　展覧会「霧に揉まれた芸術はうまい」

KIRI マルシェ

アートの視点で「つくる」「食べる」を体験できる場としてのマルシェを開催

KIRI WISDOM 1

KIRI WISDOM

アートやデザインの視点から、身近なものや、暮らしの中を見つめ直し、生き方のヒントとなる知恵や物語をみつけようという場

KIRI WISDOM 2

京都芸術大学の学生を中心とした運営スタッフ

大きなパッチワークから好きな所を切ってBAGをつくる

FLY BAG

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をきっかけに、環境問題について考え行動する機会が増えることを願いProjectを立ち上げる

2018

8月　KIRI CAFE グランドオープン
千歳町毘沙門に「かめおか霧の芸術祭」の拠点
情報発信、知恵の集まる場として誕生

9月　KIRI WISDOM 1
半農半Xと移住
ゲスト：塩見直紀（半農半X研究所）

10月　KIRI WISDOM 2
パワースポットとは何か
ゲスト：植島啓司（宗教人類学者）

11月　KIRI WISDOM 3
山フーズの霧の中のクレープ
ゲスト：小檜山聡子（山フーズ）、Luan BANZAI、Noémie Creux

「かめおか霧の芸術祭」キックオフイベント
混ざる霧と音
2018年11月25日
会場：ガレリアかめおか
展覧会「霧に揉まれた芸術はうまい」
北山 善夫、栗本 夏樹、西野康造、松井利夫、みずのき美術館コレクション、吉田 伊佐、渡辺 信喜
特別出品：松本治
ライヴ 「第一部：心と体を整える癒しのコンサート」
エイコン・ヒビノ、赤穂美紀、楠田名保子、かめおか市民オカリナ演奏団 with 大沼光代
ライヴ 「第二部：亀岡・霧のサウンドスケープ」
KND + Shoichi Murakami + 八木良太、小松千倫
KIRI² 芸術大学
かめおかの天然絵の具で描こう
講師：ベリー・マキコ
KIRIのなかにはなにかいる
講師：八太栄里
自分をキャラクター化して亀岡ネタで漫画を描こう
講師：グレゴリ青山
「土の色いろいろ」亀岡の原土から粘土を作る
講師：綿引恒平
糸でデザインする椅子 - 椅子の座編み体験 -
講師：吉田欣司
自分の名前が劇的に上手くなる
講師：水江風海
ふれてみたい？みんなで作るフランス料理の世界
講師：長尾淳一郎
葉っぱヨガ
講師：俣野多映子
亀岡市保津町で育てた藍で染めよう
講師：吉川慶一
家庭でできる麹作り
講師：星野潤
ものづくり・絵を描く楽しさを教えます！
講師：京都府立亀岡高校（美術・工芸専攻1、2年生有志）
トーク「霧で芸術を揉み、アートを耕す」
出演者：アレックス・カー、日比野克彦、松井利夫、奥山理子

12月　KIRI WISDOM 4
亀岡滞在プレゼンテーション
ゲスト：塩見直紀（半農半×研究所）

KIRI WISDOM 5
お茶堂の会
ゲスト：きむらとしろうじんじん、安川雄基（アトリエカフエ）

2019

3月　KIRIマルシェ
朝と昼と夜 点描で亀岡を描く
2019年3月2日－3日
会場：KIRI CAFEとその周辺
出店
食｜KIRI CAFE、食堂souffle、colissimo cafe selen、もしも屋、山フーズ、瓜生山養蜂部 、喫茶つきよみ、やぎ地立計画、福井悠平、愛善みずほ会、ハイツ野菜研究部
モノ｜shurint、滝町昌寛、アコラップ、亀岡みんなの古本屋、マヤルカ古書店、吉田欣司、佐野元春、Wakako Aketa、球体アイ、サイネンショー、九谷女子、itou、ヒカミヤレコード、山本守、Glass Studio Calore、グレゴリ青山古本部
展示
阿部海太（絵）、大村大悟（彫刻）、STUDIO森森（インスタレーション）
ワークショップ
原始的な道具を作る　講師：大村大悟
シルクスクリーン　　講師：bluff
ライヴ
角銅真実、yatchi
制作
KIRIカフェ、山ト波

5月　KIRI EXHIBITION 1　副産物産店＠亀岡
作家：副産物産店
関連イベント
芸術家の副産物で椅子をつくろう
ゲスト講師：森太三（美術家）
芸術家の副産物でアクセサリーをつくろう
ゲスト講師：岸本敬子（デザイナー）

6月　KIRI WISDOM 6　副産物産店＠亀岡
ゲスト：副産物産店

KIRI WISDOM 7　世界の田んぼから
ゲスト：伊達伸明（美術家）、松井利夫

7月　KIRI EXHIBITION 2　un
作家：京都芸術大学 ファッションデザインコース ゼミ4年生

KAMEOKA FLY BAG Project キックオフイベント
インスタレーション作品を発表
役目を終えたパラグライダーの丈夫で軽い生地を再利用し、パッチワークで巨大なバッグを制作、重機に取り付け空高く上げ、まちの人たちにお披露目
場所：亀岡駅北広場
ワークショップ開催
大きなバッグから小さなバッグに切り分け作り直す。
大きく、やがて小さくなってまちを彩るバッグが象徴となり、環境への想いを広げる。
アートディレクション：武内昭（THEATRE PRODUCTS）
制作統括：UMMM

環境ロゴマーク　プロジェクト
「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の背景にある「海ごみサミット」からはじまった亀岡市の海ごみ発生抑制の取り組みを含む環境政策を象徴する環境ロゴマークを制作するプロジェクトを実施

Plastics Smart かめおか100人会議
ゲスト：豊田知八（保津川遊船企業組合理事長）、原田禎夫（大阪商業大学准教授）、桂川孝裕（亀岡市長）、仲山德音（亀岡市前副市長）、山内剛（亀岡市環境政策課長
会場：KIRI CAFE

コミュニティーデザイナー山崎亮さんと亀岡で環境と未来について考えよう！
講師：山崎 亮（studio-L）
会場：亀岡市役所　市民ホール

ともに生きる

プラごみ ゼロ

KIRI EXHIBITION

「KIRI CAFE」に新たにギャラリーとしての機能が加わり、展覧会や関連イベントを行いながら、生命や魂をより一層輝かす「技術」を一緒に学んでいく

第一回 ワークショップ

chili-chili 植木鉢づくり

やおやおや

369Works鈴木健太郎さんと考える「農と食」

ガレリア美術館

亀岡の魅力がつまった冊子 発行記念原画展

かめおかアートマーケット

Laid To Rest

こどもうるし体験

シンポジウム 世界に誇れる環境先進都市亀岡

2019

8月　KIRI² 芸術大学
うなぎを探しに行こう
講師：田中秀門（亀岡市生涯学習部長）

KIRI EXHIBITION 3
亀岡の魅力がつまった冊子　発行記念原画展
『京都・亀岡 暮らしと、ところ。』『Kyoto-kameoka Hidden gem』グレゴリ青山さんとキリカメ7による漫画本『ナマの亀岡』3冊の完成記念展を開催

KIRI WISDOM 7
亀岡の魅力がつまった冊子の制作について
ゲスト：ベリー・マキコ（挿絵）、仲山徳音（英訳）

KIRI EXHIBITION 4
「やおやおや」新しい野菜の売り方・買い方提案
関連イベント
野菜とカレーと古本市　ゲスト：べじたぶるぼーと
野菜収穫と稲刈りとランチ会
ゲスト：かたもとオーガニックファーム、キッチンあまわか
野菜と野菜のまわりの話　ゲスト：369 Works
野菜と音楽　ゲスト：クサカベ農園
野菜と食堂　ゲスト：ハイツ野菜研究部、saji

9月　環境ロゴマーク プロジェクト
亀岡市の環境政策を象徴するロゴマークを作成するワークショップを開催。「Plastics Smart かめおか100人会議」に参加した市民を中心に19名が、全4回のワークショップにおいてロゴマークを作成
ワークショップ
第1回 2019年9月21日、第2回 2019年10月29日、第3回 2019年11月9日、第4回 2019年12月7日
講師：奥村昭夫（デザイナー）
会場：亀岡市役所会議室

9月　KIRIマルシェ vol.2
点描で亀岡を描く
2019年9月28日－29日
会場：KIRI CAFE、千手庵、毘沙門荘、へき亭
出店
食｜KIRI CAFE、一陽、もしも屋、山角や、瓜生山養蜂部、愛善みずほ会、ハイツ野菜研究部、かたもとオーガニックファーム、べじたぶるぼーと、クサカベ農園、福井悠平、へき亭、やぎ地立計画、ogawaya、喫茶つきよみ、食堂souffle、家の実、Coffee stand blackie、Saji
モノ｜Wakako Aketa、STUDIO森森、蔵出しサイネンショーとHANDOVER FARM、アコラップ、山成 みんなの古本屋、グレゴリ青山とキリカメ7、Glass Studio Calore、吉田欣司、滝町昌寛、佐野元春、filithematerira、九谷女子、shurint、ヒカミヤレコード＆ペパロン
展示
阿部海太（絵）、大村大悟（彫刻）、STUDIO森森（インスタレーション）
ワークショップ
原始的な道具を作る　講師：大村大悟
SHOKKIの陶芸教室　講師：SHOKKI
シルクスクリーン　講師：bluff
ライヴ
角銅真実、yatchi、寺田燿児
制作
KIRIカフェ、山卜波

KIRI EXHIBITION 5　Konect.Tokyoの植木鉢展
関連イベント／chili-chili 植木鉢づくり
講師：彦根卓巳（Konectディレクター）、須藤圭太（陶芸家）

KIRI WISDOM 9　Konect.Tokyoと陶芸家
ゲスト：彦根卓巳（Konectディレクター）、須藤圭太（陶芸家）

2019

10月　KIRI WISDOM 10　大本さんの植物園
ゲスト：澤田徹（大本花明山植物園）
聞き手：松井利夫（かめおか霧の芸術祭 総合ディレクター）

11月　KIRI² 芸術大学
YOSHIDA WOOD STUDIO 吉田欣司さんと考える「木」
講師：吉田欣司（家具職人）

12月　KIRI² 芸術大学
漆造形作家 栗本夏樹さんと考える「漆」
講師：栗本夏樹（漆作家）
369Works 鈴木健太郎さんと考える「農と食」
講師：鈴木健太郎（移動八百屋）

KIRI EXHIBITION 6　Laid To Rest
関連イベント／野菜の彫刻＋鍋の儀式
作家：Finchittida Finch（アーティスト）

KIRI WISDOM 11 Art & Agriculture
ゲスト：Finchittida Finch（アーティスト）、鈴木健太郎（移動八百屋）

こども漆体験プロジェクト
講師：安井友幸（京都市立芸術大学教授）、大矢一成（京都市立芸術大学教授）
場所：亀岡川東学園、薙田野小学校

2020

1月　かめおか霧の芸術祭 － 素顔のかめおか －
2020年1月18日－19日
会場：ガレリアかめおか
2018年11月のキックオフイベントを皮切りに、年間を通して様々な催しを行い、2019年度事業の集大成となるコアイベントを開催
シンポジウム
世界に誇れる環境先進都市亀岡
豊田知八（世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会会長）、武内昭（THEATRE PRODUCTS）、並河杏奈（環境ロゴマークプロジェクト参加者）、松井利夫（かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー）、桂川孝裕（亀岡市長）、仲山徳音（前亀岡市副市長）
第6回輝きフォーラム
藤浩志（美術家）、榊田隆之（京都信用金庫理事長）、松井利夫（かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー）、仲山徳音（前亀岡市副市長）、田中英行（アーティスト、霧の芸術祭キュレーター）
アーティストとサスティナビリティ
藤浩志（美術家）、柴田英昭（淀川テクニック）、副産物産店（矢津吉隆＋山田毅）、Parallel laboratory（中里洋介＋山野恭稔）、市村恵介（Antenna）、仲山徳音（前亀岡市副市長）、田中英行（アーティスト・霧の芸術祭キュレーター）
持続可能な食と農がひらく新しい亀岡の未来
仲山徳音（亀岡前副市長）、田村典江（総合地球環境学研究所上級研究員）、大石尚子（龍谷大学政策学部准教授）、鈴木健太郎（369works）、スティーブン・マックグリービー（総合地球環境学研究所准教授）、松井利夫（かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー）、桂川孝裕（亀岡市長）、仲山徳音（前亀岡市副市長）、ハイン・マレー（総合地球環境学研究所副所長）
KIRI CAFE小屋
総合案内所／カフェ

KIRI WISDOM 第３回

KIRIマルシェ vol.3 KIRI CAFE

演奏 角銅真実

畑で油絵を描く

ヒカクシダの板付レッスン

路上観察会

KIRIマルシェ vol.3
たわわ朝霧

クレイアニメーションでGifスタンプ

色相の椅子をつくろう

色相の椅子をつくろう

DIYクリスマスパーティー

霧が育てる保津そば九十日の旅

探石会

漆器修繕くらぶ

2020

1月　ガレリア美術館
展示作家：大石早矢香、奥村博美、北山善夫、栗本夏樹、八太栄里、ベリー・マキコ、みずのき美術館コレクション、吉田伊佐、渡辺信喜
会場構成：副産物産店
こども漆体験プロジェクト
講師：安井友幸、大矢一成
参加：亀岡川東学園４年生、薛田野小学校４・５年生
かめおかアートマーケット
野菜とフード｜愛善みずほ会、ハイツ野菜研究部、かたもとオーガニックファーム、べじたぶるぽーと、369Works、酒肆鬚髭、cafe selen、ogawaya、もしも屋、つきよみ、saji、山のテーブル、瓜生山養蜂部、Coffee stand blackie、Kocorono、La retta、やぎ地立計画、ぽっかって、サトちゃん納得ぶたまん、寒山拾得
展示と販売｜谷内亮太、サイネンショー、WATAKAMA、SHOKKI、アコラップ、副産物産店、Glass Studio Calore、木　工　房OKA、Wakako Aketa、佐野元春、京都芸術大学 空間デザイン学科、松永弦楽器工房、グレゴリ青山とキリカメ7、京都・亀岡暮らしと、ところ。、shurint、球体アイ、滝町昌寛、大本花明植物園、kam、漆器修繕くらぶ
ワークショップ｜bluff、吉田欣司、ほづあい研究所、亀岡高校 美術・工芸専攻有志、verdure.
特別企画　山フーズ×SHOKKIによる
「全部つくって全部たべる」ワークショップ
食べられる器を作る
食べられる器でビュッフェ体験
企画：山ト波＋山フーズ（小桧山聡子）＋SHOKKI
生ける野菜展

6月　KIRI WISDOM オンライン講座
新しい日常を耕す
地域から始まるアフターコロナ の生活様式
第１回　山崎亮（studio-L）
第２回　小林舞（総合地球環境学研究所 研究員）
第３回　伊達伸明（美術家）
第４回　春日部幹（春日部幹建築設計事務所）、安川雄基（アトリエカフエ）
第５回　服部滋樹（graf）

KIRI EXHIBITION 7　COYA展
24時間ライブ配信　土・畑・小屋づくり
関連企画
石拾い・石に釉薬をかけて焼く
ゲスト：松井利夫（陶芸家）
土質調査
ゲスト：藤井孝夫（京都先端科学大学 バイオ環境学部）
畑の石の展覧会
場所：KIRI CAFE横の畑
野菜づくりについて意見交換会と種植え
講師：小林 舞（総合地球環境学研究所 研究員）

KIRI² 芸術大学
路上監察部
講師：八太栄里（美術家）
クレイアニメーションでGifスタンプ
講師：コイワシ（クレイアニメーション）
小屋の貯金箱をつくろう
講師：森太三（STUDIO森森）
野草でブーケをつくる
講師：畑美沙子（verdure.）

「小屋の本　霧のまち亀岡からみる風景」刊行
亀岡の風景を象徴する“農機具小屋”をリサーチした
芸術祭から生まれた本
著者：辰巳雄基（かめおか霧の芸術祭 実行委員）・ヤマサキエイスケ・ 安川雄基・冨吉美穂

7月　KIRI² 芸術大学
探石会
講師：山田愛（美術家）
漆器修繕くらぶ
講師：栗本夏樹（漆造形作家）
路上監察部
講師：八太栄里（美術家）
農具の再生 - 道具と鍛冶 -
講師：堀田典男（野鍛冶）
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）
キリカフェの畑で油絵を描く
講師：上林和統（画家）
押し花で表現する
講師：畑美沙子（verdure.）
小屋の貯金箱をつくろう
講師：森太三（STUDIO森森）

8月　KIRI² 芸術大学
探石会
講師：山田愛（美術家）
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）
霧が育てる保津そば九十日の旅
講師：西村文夫・中野恵二
オリジナルキャラクターで
クレイアニメーションスタンプを作る
講師：コイワシ（クレイアニメーション）
お気に入りハーブの植え替え
講師：畑美沙子（verdure.）
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）

9月　KIRI² 芸術大学
漆器修繕くらぶ
講師：栗本夏樹（漆造形作家）
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）
霧が育てる保津そば九十日の旅
講師：西村文夫・中野恵二
オリジナルキャラクターで
クレイアニメーションスタンプを作る
講師：コイワシ（クレイアニメーション）
キリカフェの畑で油絵を描く
講師：上林和統（画家）

やおやおや出店
sajiによる旭町の新米をつかったおにぎり屋台
場所：農産物直売所なごみの里あさひ

10月　KIRI² 芸術大学
路上監察部
講師：八太栄里（美術家）
外ヨガ
講師：俣野多映子（ヨガインストラクター）
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）
オリジナルキャラクターで
クレイアニメーションスタンプを作る
講師：コイワシ（クレイアニメーション）
探石会
講師：山田愛（美術家）

やおやおや出店
場所：嵯峨嵐山駅

11月　手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）
そばの収穫・脱穀
講師：西村文夫・中野恵二

旧沼田モータース

Parallel laboratory「Parallel-H」

金重 尹郎

八木 良太

亀岡文化交流協会 演奏会

めぐるかめおか IRI EXHIBITION

森太三「関係のベンチ 亀岡」

霧の芸術館 大本みろく会館

安藤 隆一郎

めぐるかめおか「市役所展」

めぐるかめおか
「インフォメーションセンター」

めぐるかめおか
「インフォメーションセンター」

めぐるかめおか
「竹を編む 記憶を辿る」紙芝居劇場

KIRI2 芸術大学
「自然の艶を纏った“漆石アクセサリー”づくり」

2020

11月　キリカフェの畑で油絵を描く
講師：上林和統（画家）
路上監察部
講師：八太栄里（美術家）
色相の椅子をつくろう
講師：森太三（STUDIO森森）
ビカクシダの板付けレッスン
講師：畑美沙子（verdure.）

やおやおや出店
スペイン食堂「サルテン」による料理
場所：農産物直売所なごみの里あさひ

銀座蔦屋書店　オンライントークイベント
小屋にみる「つくる」と「つかう」

12月　KIRI² 芸術大学
着彩画のためのレッスン
講師：吉田伊佐（洋画家）
ビカクシダの板付けレッスン
講師：畑美沙子（verdure.）
DIYクリスマスパーティー
講師：佐藤友佳（アーティスト）
そば打ち体験
講師：西村文夫・中野恵二

SDGs 対話イベント「しぜんの中の小さな会議」
ファシリテーター：丹下紘希（映像作家）

2021

2月　かめおか霧の芸術祭
めぐるかめおか
霧のまち かめおかを めぐりめぐる 18日間
会期：2021年 2月11日（木・祝）– 28日（日）
会場：亀岡市役所、亀岡市文化資料館、大本みろく会館、みずのき美術館、KIRI CAFE、旧おぎた商店、旧沼田モータース、稱名寺、嶺樹院、大圓寺、本門寺／「離れ」にのうみ、その他、市内各所
霧の芸術館
亀岡市文化資料館
展示作家：Antenna、安藤隆一郎、今村遼佑、小松千倫 、サイネンショー 、辰巳雄基 、西久松友花 、八太栄里、副産物産店、森太三、八木良太、綿引恒平
大本みろく会館
展示作家：大石早矢香、奥村博美、金重尹郎、北山善夫、栗本夏樹、佐々木虚室、出口鯉太郎、西野康造、ベリー・マキコ、松井利夫、吉田伊佐、渡辺信
みずのき美術館
参加施設：ヴィレッジれん、京丹波町共同作業所 本所、京丹波町共同作業所 瑞穂支所、京都府立丹波支援学校、かめおか作業所、学びの森、社会福祉法人 松花苑 かしのき
共催：きょうと障害者文化芸術推進機構（京都府）
協力：日本キリスト教団 丹波新生協会 園部会堂

霧の城下町
KIRI ショップ
bluff（シルクスクリーン）、cafe selen（お菓子）、Glass Studio Calore（ガラス）、ogawaya（お菓子）、shurint（服）、WATAKAMA（陶器）、亀岡福祉会（お菓子）、かわかみ茶葉店（ブレンドハーブティー）、つきよみ（お菓子）、森太三（木工）、吉田欣司（木工）
POP-UP CAFE
no-mu cafe、めぐる亀岡土産
会場：旧おぎた商店

2月　KIRI² 芸術大学
クレイアニメで“動く”オリジナルスタンプをつくろう
講師：コイワシ
オリジナルデザインを製版・プリント〈MYバッグから始めるMYブランド〉
講師：bluff
色漆でつくる霧景色のお皿
講師：安井友幸、大矢一成
自分の色を組み合わせて“色相の椅子”をつくろう
講師：森太三
植物標本をつくろう!
講師：澤田徹（花明山植物園）
自然の艶を纏った“漆石アクセサリー”づくり
講師：栗本夏樹
手彫りでつくるヒノキの鍋敷
講師：吉田欣司
企画展示
Parallel laboratory（中里洋介、山野恭稔）、YUKO KIMOTO、小久保寧
会場：旧沼田モータース
企画展示
Parallel laboratory（中里洋介、山野恭稔）、xorium
会場：市内各所
霧の芸術家 ショーウィンドウ展
① 西脇製パン ポワール × 陶工房 しの平窯
② ミヅツラ電器 × 斎田石材店
③ BARBER オガワ × かたもとオーガニックファーム
④ らくだ薬局 × Glass Studio Calore
⑤ スペイン食堂サルテン × 長岡銘竹株式会社
⑥ カフェタイム亀岡店 × 京都ほづ藍工房株式会社
⑦ saji × 細井友禅
⑧ 古布井尻 × 京料理 松庄
アーティスト角銅真美、小松千倫による期間限定サウンドアート

2月　亀岡文化交流協会
創立 40 周年記念発表会
会場：嶺樹院、大圓寺、稱名寺、本門寺
参加団体：地歌舞 古澤流 侑昆会、惠琴会、千寿会、和の会、和芳会、正派若柳流 吉乃富会＋泉乃会
市役所展
会場：亀岡市役所
アート×環境展示、HOZUBAG、環境ポスター
アート×農業展示
プロジェクト なごみの里 あさひ、若手農家の紹介 野菜の直販
アート×教育展示
こども漆体験プロジェクト、南丹高校プロジェクト、亀岡高校 卒業制作展、「川とともに暮らす 亀岡 2070」展示発表
アート×商工観光
KIRI メニュー かめおかの食をめぐる
KIRI EXHIBITION
竹を編む 記憶を辿る
会場：KIRI CAFE
毘沙門地域の竹細工コレクション、世界の竹細工、紙芝居劇場、動画アーカイブ
オンライントークイベント
「竹と共にある暮らし」
登壇者：橋本千菜美（竹の造形家）、鵜飼均（亀岡市文化資料館 館長）、松井利夫（かめおか霧の芸術祭 総合プロデューサー）進行：辰巳雄基（かめおか霧の芸術祭実行委員会）
ワークショップ
「青竹で編む六ツ目籠」
講師：橋本千菜美（竹の造形家）

KIRI
かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation

かめおか霧の芸術祭実行委員会

顧問	桂川孝裕［亀岡市長］
委員長	石野茂［亀岡市副市長］
副委員長	塚本政雄［亀岡市自治会連合会会長］
委員	徳山竜一［亀岡市政アドバイザー］
	廣瀬照雄［千歳町自治会長］
	藤原庸右［旭町自治会長］
	吉田伊佐［洋画家］
	栗本夏樹［京都市立芸術大学教授］
	中嶋知彦［京都府立亀岡高等学校校長］
	前野正博［京都府立南丹高等学校校長］
	山田歌［大本本部総務部長］
	楠善夫［（一社）亀岡市観光協会会長］
	大久保伸一［（一社）亀岡青年会議所副理事長］
	吉村一志［（一社）森の京都地域振興社（森の京都DMO）地域振興部長］
	豊田知八［世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会会長］
	田中秀門［（一社）かめおかコンベンションビューロー専務理事］
	山内俊房［亀岡市市長公室長］
	鳥山恒夫［亀岡市シティプロモーション担当室長］
	山内剛［亀岡市環境先進都市推進部長］
	由良琢夫［亀岡市産業観光部長］
	久保日出樹［亀岡市教育委員会教育部次長］
監事	鵜飼均［亀岡市文化資料館館長］
総合プロデューサー	松井利夫［京都芸術大学教授］
事務局長	田中博樹［亀岡市生涯学習部長］
事務局次長	小塩睦子［亀岡市生涯学習部文化国際課長］
事務局	服部理恵子［文化国際課副課長兼文化国際係長事務取扱］
	岡田春樹［亀岡市生涯学習部文化国際課主幹］
	伴田恵［亀岡市生涯学習部文化国際課文化国際係］
	格畑智冴［亀岡市生涯学習部文化国際課文化国際係］
プロジェクトディレクター	辰巳雄基／矢津吉隆／山田毅
プロジェクトマネージャー	持田博行
KIRI CAFE店長・HOZUBAG工場長	武田幸子
プランナー	佐藤友佳
エディトリアルプランナー	佐藤壮一郎
エンジニア	中川哲光
クリエイティブ	paragram
企画・運営	一般社団法人きりぶえ

かめおか霧の芸術祭ARCHIVE BOOK 2021

発行日	2022年03月
デザイン	paragram
編集	アースコンシャス
発行	かめおか霧の芸術祭実行委員会
助成	（一財）地域創造

KIRI
かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation